

教養科目（令和5年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要		
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	山本 淳		授業コード別掲 後期開講（2～3月） 日本史指定・社会情報指定 国語国文・英語英文指定 英語英文・日本史指定 国語国文・社会情報指定		
		65000	別掲 教養ゼミ	②	30	1	前期	（別掲）				
		60031	キャリア実践講座	1	15	1	集中	後藤 和也				
		60040	60041 ライフ・キャリアデザイン （木曜V限）	}	2	30	1・2	前期	後藤 和也			
		60040	60042 "（金曜V限）									
		60050	60051 現代社会とキャリア形成 （火曜V限）	}	2	30	1・2	後期	後藤 和也			
		60050	60052 "（木曜V限）									
	主題別科目	60110	60111 心理学（火曜II限）	}	2	30	1・2	前期	石崎 毅	○ 教職必修 栄養大との合同授業（単位互換による） 栄養大との合同授業（単位互換による） 前期開講（8～9月）		
		60110	60112 "（火曜III限）									
		60130	日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学				
		60140	国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学				
		60150	現代社会論	2	30	1・2	集中	磯崎 匡				
		60160	ジェンダー論	2	30	1・2	前期	山田彩起子				
		60190	健康と栄養	1	15	1・2	前期	金谷 由希				
60200	芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典						
情報リテラシー	60210	60211 情報処理演習Ⅰ（水曜II限）	}	2	30	1・2	前期	董 彦文	② 英語英文指定 国語国文指定 日本史・社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 日本史・社会情報指定 「情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい 「簿記会計演習」又は「応用情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい			
	60210	60212 "（木曜I限）										
	60210	60213 "（水曜III限）	}	2	30	1・2	後期	（ ）				
	60210	60214 "（水曜IV限）										
	60210	60215 "（金曜I限）	}	2	30	1・2	前期	西川 友子				
	60220	60221 情報処理演習Ⅱ（水曜I限）										
	60220	60223 "（木曜I限）	}	2	30	1・2	前期	伊豆田義人				
	60220	60224 "（水曜III限）										
	60220	60225 "（火曜I限）	}	2	30	1・2	前期	伊豆田義人				
	60260	応用情報処理演習Ⅰ										
	60270	応用情報処理演習Ⅱ	2	30	1・2	前期	伊豆田義人					
	60280	応用情報処理演習Ⅲ	2	30	1・2	前期	伊豆田義人					
	共通基礎科目	外国語	60310	英語一	}	2	30	1・2		前期	石田 陽子	② 国語国文学科 日本史学科 社会情報学科 英語英文指定 国語国文・社会情報指定
60320			英語二	後期					北山 長貴			
60330			英語三	前期					三枝 和彦			
60340			英語四	後期					渡邊真由美			
60350			英語五	後期					小林 亜希			
60360			英語六	前期					阿部 隆夫			
60370			英語七	後期					太田 裕子			
60380			英語八	前期					太田 裕子			
60390			英語九	後期					三枝 和彦			
60400			英会話A	前期					イブトナー, カロリン			
60410			英会話B	前期					イブトナー, カロリン			
60420			英会話C	後期					イブトナー, カロリン			
60430			英会話D	後期					イブトナー, カロリン			
			異文化理解実習	2					60			
60460		60461 フランス語一（月曜III限）	}	②	30	1・2	前期	寺本 弘子	初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい 本年度開講せず			
60460		60462 "（月曜IV限）										
60470		60471 フランス語二（月曜II限）	}	2	30	1・2	後期	寺本 弘子				
60470		60472 "（月曜IV限）										
60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子					
60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子					
60500		60501 中国語一（月曜III限）	}	2	30	1・2	前期	齋藤 知広				
60500		60502 "（月曜IV限）										
60500		60503 "（月曜II限）	}	2	30	1・2	後期	李 通江				
60500		60504 "（月曜III限）										
60510		60511 中国語二（月曜III限）	}	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				
60510		60512 "（月曜IV限）										
60510		60513 "（月曜II限）	}	2	30	1・2	前期	齋藤 知広				
60510		60514 "（月曜III限）										
60520	中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広						
60530	中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広						

教養科目（令和5年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
共通基礎科目	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子		〔 英語英文学科 〕	
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）								
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）								
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子			
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）					齋藤 知広			
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）					李 通江			
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）					齋藤 知広			
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	李 通江			
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）					李 通江			
		60520		2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
	60530		2	30	1・2	後期	齋藤 知広				
			2	60	1・2	集中	英文専任教員	本年度開講せず			
保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期	比留間浩介	②	個人種目スポーツ	
	60620		スポーツ実技二							個人種目スポーツ	
	60630		スポーツ実技三							団体種目スポーツ	
	60640		スポーツ実技四							団体種目スポーツ	
	60650		スポーツ実技五							レクリエーション・スポーツ	
	60660		スポーツ実技六							レクリエーション・スポーツ	
	60670		スポーツ実技七							フィットネス	
	60680		スポーツ実技八							フィットネス	
	60690		スポーツ実技九							集中	前期開講（8～9月）
	60700		スポーツ実技十							集中	冬季開講予定
	60710		健康理論 ※1	1	15	1・2	後期	加藤 守匡			
60720		スポーツ文化論 ※1	2	30	1・2	後期	比留間浩介				

（注）・「○数字」は必修単位、「□○数字」は選択必修単位

- ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
- ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
- ・※1「健康理論」及び「スポーツ文化論」は、卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

教養ゼミ 授業コード

学科	科目コード	授業コード	担当教員
国語 国文	65000	65011	高橋 永行
	65000	65012	山本 淳
	65000	65013	佐々木紀一
	65000	65014	村瀬 桃子
	65000	65016	北口己津子
	65000	65017	後藤 和也
	65000	65019	今井 瞳良
英語 英文	65000	65021	北山 長貴
	65000	65022	阿部 隆夫
	65000	65023	松井 真人
	65000	65024	渡邊真由美
	65000	65025	畑田 秀将
	65000	65026	小林 亜希
	65000	65027	ヴァアコーリ, マーニ

学科	科目コード	授業コード	担当教員
日本史	65000	65031	菌部 寿樹
	65000	65032	小林 文雄
	65000	65033	吉田 歆
	65000	65034	布施 賢治
	65000	65035	原 淳一郎
	65000	65036	山田彩起子
社会情報	65000	65041	石崎 毅
	65000	65042	亀ヶ谷雅彦
	65000	65043	伊豆田義人
	65000	65044	小池 隆太
	65000	65046	西川 友子
	65000	65047	比留間浩介
65000	65048	中川 恵	
65000	65049	高浜 快斗	

※指定学年（1学年）以外の者が「教養ゼミ」の再履修を要する場合は、別途指示する

教養科目（令和4年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要					
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	山本 淳		後期開講（2～3月） 日本史・社会情報指定 国語国文・英語英文指定 英語英文・日本史指定 国語国文・社会情報指定					
			教養ゼミ	②	30	1	前期	—							
		60040	キャリア実践講座	1	15	1	集中	後藤 和也							
		60040	ライフ・キャリアデザイン （木曜V限）	}	2	30	1・2	前期	後藤 和也						
		60040	” （金曜V限）												
		60050	60051	現代社会とキャリア形成 （火曜V限）	}	2	30	1・2	後期		後藤 和也				
	60050	60052	” （木曜V限）												
	主題別科目	60110	60111	心理学（火曜II限）	}	2	30	1・2	前期	石崎 毅	○ 教職必修 栄養大との合同授業（単位互換による） 栄養大との合同授業（単位互換による） 前期開講（8～9月）				
		60110	60112	”（火曜III限）											
		60130		日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学						
		60140		国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学						
		60150		現代社会論	2	30	1・2	集中	磯崎 匡						
		60160		ジェンダー論	2	30	1・2	前期	山田彩起子						
		60190		健康と栄養	1	15	1・2	前期	金谷 由希						
60200			芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典							
情報リテラシー	60210	60211	情報処理演習Ⅰ（水曜II限）	}	2	30	1・2	前期	董 彦文	② 英語英文指定 国語国文指定 日本史・社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 日本史・社会情報指定 「情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい 「簿記会計演習」又は「応用情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい					
	60210	60212	”（木曜I限）												
	60210	60213	”（水曜III限）												
	60210	60214	”（水曜IV限）												
	60210	60215	”（金曜I限）												
	60220	60221	情報処理演習Ⅱ（水曜I限）	}	2	30	1・2	後期	( )						
	60220	60223	”（木曜I限）												
	60220	60224	”（水曜III限）												
	60220	60225	”（火曜I限）												
	60260		応用情報処理演習Ⅰ								2	30	1・2	前期	西川 友子
	60270		応用情報処理演習Ⅱ								2	30	1・2	前期	伊豆田義人
60280		応用情報処理演習Ⅲ	2	30	1・2	前期	伊豆田義人								
共通基礎科目	外国語	60310	英語一	}	2	30	1・2	前期	石田 陽子	② 国語国文学科 日本史学科 社会情報学科 英語会話A～Dの受講者数が30名を超える場合は抽選を行う。 本年度開講せず 初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい 英語英文・日本史指定 国語国文・社会情報指定					
		60320	英語二												
		60330	英語三												
		60340	英語四												
		60350	英語五												
		60360	英語六												
		60370	英語七												
		60380	英語八												
		60390	英語九												
		60400	英会話A												
		60410	英会話B												
		60420	英会話C												
		60430	英会話D												
		60460	60461								フランス語一（月曜III限）	}	②	30	1・2
	60460	60462	”（月曜IV限）												
	60470	60471	フランス語二（月曜II限）												
	60470	60472	”（月曜IV限）												
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子							
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子							
	60500	60501	中国語一（月曜III限）	}	2	30	1・2	前期	齋藤 知広						
	60500	60502	”（月曜IV限）												
	60500	60503	”（月曜II限）												
	60500	60504	”（月曜III限）												
	60510	60511	中国語二（月曜III限）							}	2	30	1・2	後期	齋藤 知広
	60510	60512	”（月曜IV限）												
	60510	60513	”（月曜II限）												
60510	60514	”（月曜III限）													
60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広								
60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広								

教養科目（令和4年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
共通基礎科目	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子		〔 英語英文学科 〕	
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）								
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）								
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子			
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）					齋藤 知広			
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）					李 通江			
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）					齋藤 知広			
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）	齋藤 知広	30	1・2	後期	齋藤 知広			
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）	李 通江							
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）	李 通江							
	60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
	60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
			異文化理解実習	2	60	1・2	集中	英文専任教員			本年度開講せず
	保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期			比留間浩介
60620			スポーツ実技二	個人種目スポーツ							
60630			スポーツ実技三	団体種目スポーツ							
60640			スポーツ実技四	団体種目スポーツ							
60650			スポーツ実技五	レクリエーション・スポーツ							
60660			スポーツ実技六	レクリエーション・スポーツ							
60670			スポーツ実技七	フィットネス							
60680			スポーツ実技八	フィットネス							
60690			スポーツ実技九	前期開講（8～9月）							
60700			スポーツ実技十	冬季開講予定							
60710			健康理論 ※1	1	15	1・2	後期	加藤 守匡			
60720		スポーツ文化論 ※1	2	30	1・2	後期	比留間浩介				

(注)・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位

- ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
- ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
- ・※1「健康理論」及び「スポーツ文化論」は、卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

講義科目名称：総合教養講座（60010）

授業コード：60010

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
山本 淳			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有 授業形態：講義
授業のテーマ及び到達目標	受講生のキャリア形成の一助として本講座を開講する。 多彩な講師による実践的かつ専門性に基づいた話を幅広く聞くことによって、教養を高め、物の見方、捉え方をより豊かなものにし、将来の進路はもとより、人としての行い方や生き甲斐等について深く考えることを目標とする。		
授業計画	別途掲示		
授業概要	学外の講師により、各回完結型の講義を行う。講義内容は各回担当者によって多岐にわたるが、その道の専門家としての貴重な見解が聴取できる。また、この科目は地域貢献事業の一環として、広く県民の方々にも公開される。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。		
テキスト	必要に応じて、資料等を配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各界の現場で活躍する方々を講師として、毎回設定します。実社会での生の話が伺える貴重な機会ですので、なるべく多くの学生の履修を希望します。		
評価方法	課題レポート30%、授業への参加度70%。 レポート課題は、12月中に掲示または印刷物配布をもってお知らせいたします。		
参考文献	各回の講師とテーマは、後期開始直前に本学ホームページに掲載します。		
備考			

講義科目名称：教養ゼミ（65000）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
本学専任教員			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標は以下二点である。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>
授業計画	－
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。</p> <p>全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」であり、具体的な授業計画は担当教員が決定する。なお、担当教員ごとのテーマは【教養ゼミのテーマ&lt;科目コード&gt;】のページを参照されたい。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	担当教員が指示する。
テキスト	開講時に担当教員が指示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート、授業への参加度、授業形態などで評価する。</li> <li>・具体的な評価方法は担当教員が決定する。</li> </ul>
参考文献	
備考	

## 【教養ゼミ（科目コード 65000）のテーマ】

〔 担当教員＜授業コード＞  
・テーマ、メッセージ 〕

### 国語国文学科

高橋 永行 <65011>

- ・体験型ワークショップ（カードゲームや言語景観クイズ）を行います。また土日を利用して上杉博物館を見学する予定です。

山本 淳 <65012>

- ・市立米沢図書館蔵『蝦夷恵曾谷日記』を原態で読んでみましょう。

佐々木紀一 <65013>

- ・くずし字入門 平仮名の草書体を学び、古典の仮名の美を堪能しましょう。

村瀬 桃子 <65014>

- ・LGBTQ や性暴力の問題について知り、興味をもったことについてパワーポイントで発表する。

北口己津子 <65016>

- ・「絵本」を大学生目線で鑑賞、また「おはなし」を作成して近隣の学童へ読み聞かせ実践します。

後藤 和也 <65017>

- ・「女性のキャリア」に関する新書をメンバーで輪読し、ディスカッションをしましょう。

今井 瞳良 <65019>

- ・様々な教材から「大学で学ぶ」ということを参加者全員で話し合い、考えるレクソンを行います。

### 英語英文学科

北山 長貴 <65021>

- ・字幕なしでアメリカ映画。古いけれどスタンダードな作品を観て英語の表現と文化を学びます。

阿部 隆夫 <65022>

- ・参加生各自の将来の計画を構想し実現するための情報提供をする。主題例として、国際協力事業への参加、留学（例、正規、語学、インターンシップ）、就職（例、航空会社、公務員、外資系企業、新聞社）、進学、資格取得を扱う。そのほか外国語学習の新しいアプローチを取り扱う。

松井 真人 <65023>

- ・英語コミュニケーション、TOEIC などの資格試験、編入学試験に役立つ英文法の基礎的知識を養成する。

渡邊真由美 <65024>

- ・辞書の引き方を学習します。毎回短い2、3センテンスを一語ずつ辞書を引き、適切な日本語訳を作っていきます。

畑田 秀将 <65025>

- ・社会文化と生命倫理に関するノンフィクション映像を鑑賞し、その背景を調べて意見交換します。

小林 亜希 <65026>

- ・英語圏の文化について考察する「カルチュラル・スタディーズ」の入門ゼミです。主に、イギリスとアメリカの映画を題材に、「文化」とは何かを考えてみたいと思います。

タヴァコーリ, マーニ <65027>

- ・The theme of this seminar is learning English and teaching English to children through games, songs and multimedia activities.

## 日本史学科

藺部 寿樹 <65031>

- ・中世の物語を読んで楽しもう。

小林 文雄 <65032>

- ・現代まで受け継がれてきたさまざまな芸能・音楽・楽器と触れあって、いろいろな楽しみ方をさがしましょう。

吉田 敏 <65033>

- ・文化財を調べてみよう。

布施 賢治 <65034>

- ・史料の講読や映像を通じて日本近現代史について考える。

原 淳一郎 <65035>

- ・山形の食文化を学び、みなさんの故郷との共通点や相違点を考えましょう。そして若干の試食。

山田彩起子 <65036>

- ・日本の世界文化遺産から日本史を学びましょう。

## 社会情報学科

石崎 毅 <65041>

- ・「SPI」を楽しみながら解くことを通して、論理的に考えるための方略について学びましょう。

亀ヶ谷雅彦 <65042>

- ・ハングルを勉強して、韓国のウェブドラマ、K-POP、映画、食文化などを調べます。

伊豆田義人 <65043>

- ・編入試験&TOEICのための英語長文読解。

小池 隆太 <65044>

- ・アナログゲームの構造分析と制作。ボードゲームやカードゲームを分析・制作します。

西川 友子 <65046>

- ・米沢市東部地区の神社を調べる。

比留間浩介 <65047>

- ・スプリント（疾走）能力を高めるためのトレーニングの方法について検討します。自分自身を対象にして実践的に行います。

中川 恵 <65048>

- ・「山形学」を起点に地域のトピックを知る。『自分で調べる技術』を学び実践する。

高浜 快斗 <65049>

- ・消費者の心理について検討します。今まで、そしてこれからもおこなうであろう購買行動に着目して、なぜ買おうと思うのか、なぜ買ったのか、などの日常に隠れているメカニズムについて知りましょう。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1	1	選択
担当教員			
後藤 和也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学校から職業生活への移行のための「就職活動」について考えましょう。就職活動に真剣かつ前向きに取り組むことは、初期キャリア形成上重要なことです。当授業では「社会人として活躍する」前段階として、就職活動（初期キャリア形成）に必要な知識やスキルの習得を目指します。到達目標は「自分の経験や強みなどについて文章や言葉で説明できる」ことです。具体的には、各自がエントリーシートや履歴書などの文章で自分を表現したり、面接試験で自身の経験について語ったりすることができる状態を目指します。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 就職活動の準備（スケジュール等の把握）</p> <p>第3回 自身の特性や興味・関心の理解（自己分析・自己理解）</p> <p>第4回 産業・職業の理解（企業研究・仕事理解）</p> <p>第5回 論理的な文書作成（採用時書類作成のための日本語表現や文法等について）</p> <p>第6回 コミュニケーション能力と人物試験（面接試験・集団討論）</p> <p>第7回 近年の就職活動の動向・合同企業説明会や採用ナビサイトの利用（外部ゲストの特別講義）</p> <p>第8回 授業後の行動計画の作成と授業のまとめ</p>
授業概要	就職活動に必要な知識の習得やスキルの向上を図ります。テーマに応じて外部ゲスト（人材業界）もお招きして、多角的な視点から指導します。 ※日時など受講に関する詳細は開講前に掲示します。
実務経験及び授業の内容	講師は人事・採用担当者としての職歴を有し、実務家の視点から指導を行う。なお、テーマにより外部のゲストスピーカー（就職活動に精通した人材派遣業界の実務家）を招聘する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
テキスト	伊藤宏・高橋修・松坂暢浩「大学生のための実践的キャリア&就活講座」中央経済社1600円＋税 ISBN：978-4-502-32841-1 さわらび会購買部で購入可能です
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>多くの皆さんが直面する「就職活動」について、多面的に捉える授業です。進路として民間企業への就職や公務員への就職を志望する人だけではなく、4年制大学への編入学希望者もぜひ受講してください（編入学後、間をあげずに就職活動が始まります）。具体的には以下のような皆さんに特に受講をお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動等全般に不安がある。</li> <li>・就職活動等について復習したい。</li> <li>・志望先に自分をどのようにPRすればよいかわからない。</li> <li>・編入後を見据えて必要な情報収集を行いたい。</li> <li>・採用担当者（面接官）がどのような基準で学生を評価するのかを知りたい。</li> <li>・面接試験やグループディスカッションが苦手である。</li> </ul>
評価方法	授業中の発表・発言内容等（50%）、授業中に指示する課題（50%）で評価します。
参考文献	必要に応じてコピー等を配布します。
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にテキストを購入すること。授業前までにテキストを読んで行動計画を立てる事前課題（授業外学修）へ取り組んでいただきます。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の状況によっては授業の実施方法や内容等に変更が生じる場合があります。</li> </ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有
授業形態：講義			

授業のテーマ及び到達目標	皆さん自身のキャリア形成の観点から、「自分を知る」をテーマに学修します。就職活動や4年制大学への編入学試験では、「コミュニケーション能力」と称される汎用的なスキル（ジェネリック・スキル）が求められる傾向にあります。授業をとおして、ジェネリック・スキルを育成しましょう。併せて、今後の自分なりのキャリアについて考えます。当授業では「どのような経験や活動が自身のジェネリック・スキルの伸長に關係しているかを言葉や文章で説明できる」ことを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ジェネリック・スキルの現状把握①・前期の目標設定</p> <p>第3回 コミュニケーション能力</p> <p>第4回 ジェネリック・スキル実習①（他者とのコミュニケーションを取ろう-話す・聴くコミュニケーション-）</p> <p>第5回 自己効力・モチベーション</p> <p>第6回 チーム・リーダーシップ</p> <p>第7回 ジェネリック・スキル実習②（ひとりひとりがリーダーシップを發揮しよう）</p> <p>第8回 意思決定</p> <p>第9回 キャリアにおける偶然性</p> <p>第10回 メンター・発達のネットワーク</p> <p>第11回 適性・キャリアアンカー</p> <p>第12回 目標設定</p> <p>第13回 適性検査（SPI性格検査）により自己理解を深めよう</p> <p>第14回 ジェネリックスキルの現状把握②・前期の目標達成における自己評価</p> <p>第15回 授業全体のまとめ</p>
授業概要	社会的・職業的自立に向けて有用なジェネリックスキルを育成するため、内省する時間や他者の意見を聴く時間を多く設けます。授業内の活動に取り組むことで、いわゆるコミュニケーション力を育成しましょう。入学したばかりの1年生も、進路決定を迫られている2年生にとっても有用な内容となるようにしたいと考えています。
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
テキスト	テキストは指定せず、適宜コピーを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は、直接的に就職活動や編入学試験を指導するものではありません。ただし、授業中のグループワークなどを通して話す力や聴く力が鍛えられるので、結果的に就職活動や編入学試験に役立つ情報やスキルは得られると考えます。積極的に参加いただくことを希望します。
評価方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、授業後アンケートの振り返り内容の質等）50%、最終レポート等の記載内容等50%により評価する。
参考文献	
備考	新型コロナウイルス感染症の感染状況等により、授業の実施方法に変更が生じる可能性があります。また、ゲストスピーカーとの日程調整等により、実施内容や実施回を変更する場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	これまでの皆さん自身の経験を振り返る（リフレクション）ことで、キャリアと社会の関係性について考える授業です。皆さんの権利であるワーク・ルールなども扱いますので、アルバイトや就職活動など身近なテーマを基に議論しましょう。活躍中の社会人ゲストのお話を聞く機会も設ける予定です。到達目標は「これまでの経験や今後の目標について文章で説明できる」ことです。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（私たちとキャリア）</p> <p>第2回 「偶然のチャンス」を創り出す方法</p> <p>第3回 「一皮むけた経験」を振り返り、成長の糧にする</p> <p>第4回 キャリア・ドリフト（流れに身を任せながら将来のキャリアを考える）</p> <p>第5回 「経験」と「リフレクション（振り返り）」</p> <p>第6回 「やりたいこと探し」と「やってみること（体験）」</p> <p>第7回 活躍する社会人と語ろう！（職業人講話）</p> <p>第8回 職業人講話の振り返り（社会人に必要な力とは）</p> <p>第9回 事例で学ぶジェネリック・スキル①（旅行・観光業界）</p> <p>第10回 事例で学ぶジェネリック・スキル②（中小企業）</p> <p>第11回 ワーク・ルール（労働法）のあらまし</p> <p>第12回 働きすぎと心身の健康（労働基準法、労働安全衛生法）</p> <p>第13回 労働社会における男女平等を考える（男女雇用機会均等法）</p> <p>第14回 労働組合、ユニオンとわたしたちの働く権利（労働組合法）</p> <p>第15回 授業全体のまとめ</p>
授業概要	「実社会で求められる知識や能力」について、自身の経験を振り返り、考えをまとめる機会を多く設けます。結果として、就職活動で求められる「自己分析（自己理解）」の練習になるでしょう。「ブラック企業から自分を守るための方法」「女性が働きやすい会社選び」など、皆さんにとって重要なトピックも扱う予定です。
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成（企業内キャリア形成）等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方や考え方を整理すること。
テキスト	（一財）全国大学実務教育協会編「実践キャリア考 体験からキャリアを考える」実教出版 定価：1,430円（本体：1,300円） ISBN 978-4-407-33226-1 さわらび会購買部で購入可能です。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は直接的に就職活動や編入学試験を指導するものではありません。皆さんが社会人となってからキャリアを形成していくために必要な知識や能力を考えます。ただし、必要に応じて担当教員の人事・採用の実務経験から得た知見を紹介したり、特定分野の実務家をゲストスピーカーとしてお招きしたりしますので、結果的に就職活動等に役立つ情報やスキルは得られるでしょう。
評価方法	毎授業後のリアクションペーパーにおける振り返りの内容50%、最終レポートの内容50%により評価する
参考文献	
備考	新型コロナウイルス感染症の状況等により、授業の実施方法や内容等に変更が生じる可能性があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 心理学への関心を高め、理解を深める。</p> <p>到達目標 心理学の知見と身近な生活場面を関連づけて考察したことを記述できる。</p>
授業計画	<p>第1回 心理学とは何か（心理学の様々な領域と心理学の役割）</p> <p>第2回 発達心理学（青年期までに獲得したいこと）</p> <p>第3回 臨床心理学・発達心理学（愛着形成の重要性）</p> <p>第4回 発達心理学・学習心理学（学力や人生に影響を与える決定的な要素）</p> <p>第5回 パーソナリティ心理学（パーソナリティ心理学の概要と自分らしさの指標）</p> <p>第6回 パーソナリティ心理学（自己分析の留意点）</p> <p>第7回 パーソナリティ心理学（自分を変化させ成長させる条件）</p> <p>第8回 発達心理学・臨床心理学・パーソナリティ心理学（知能のとらえ方と知能検査）</p> <p>第9回 臨床心理学（様々な発達障害とその傾向）</p> <p>第10回 臨床心理学（大人の発達障害とその対処）</p> <p>第11回 認知心理学・学習心理学（2つの学習基礎理論）</p> <p>第12回 認知心理学（記憶の方法）</p> <p>第13回 認知心理学（思考の方法）</p> <p>第14回 パーソナリティ心理学（自尊感情とパーソナルプロジェクト）</p> <p>第15回 臨床心理学（心理アセスメント）と総まとめ</p>
授業概要	<p>本講義では発達心理学、臨床心理学、パーソナリティ心理学、認知心理学の4つを中心に授業展開し、各授業で代表的な知見を紹介し、その知見と日常生活を照らし合わせ、記述することによって自分自身を振り返る時間をつくっていきます。さらに、みなさんが私見を述べたり、議論したりし、他者の感じ方や考え方に触れることを通して、知見に対する理解を深めていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	<p>学校心理士SVとしての実務経験を生かして授業を行います。</p>
時間外学習	<p>興味を持った内容についてさらに学習して、質問をしてください。</p>
テキスト	<p>必要に応じて資料を配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>心理学の専門的な知見を身近な生活場面と関連付けて講義し、興味と関心を持って受講できるように工夫したいと思います。この講義を通して私もみなさんも同じように自分自身を見つめ直す時間にできればと考えています。</p>
評価方法	<p>授業・ワークシート（関心意欲態度・思考）70% レポート（知識定着・思考）30%</p>
参考文献	<p>「DSM-4」「DSM-5」（アメリカ精神医学会著 日本精神神経学会訳）</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
堀田 学			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 日本国憲法の構造を理解する。 2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることを理解する。 3. 人権概念を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 憲法の基礎</p> <p>第2回 参政権</p> <p>第3回 国会</p> <p>第4回 内閣</p> <p>第5回 裁判所</p> <p>第6回 象徴天皇制</p> <p>第7回 平和主義</p> <p>第8回 人権総論 1（人権の理念と歴史）</p> <p>第9回 人権総論 2（人権の享有主体性）</p> <p>第10回 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回 表現の自由</p> <p>第12回 経済的自由</p> <p>第13回 人身の自由</p> <p>第14回 社会権</p> <p>第15回 幸福追求権</p>
授業概要	日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が生きています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。
テキスト	駒村圭吾編『プレステップ憲法(第3版)』弘文堂、2021年 1980円 ISBN 9784335001536
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の手を動かし書くことで理解も深まりますので、板書も多くしたいと思います。また、日々刻々と変化する社会の動きを把握するためにも、新聞やニュースに積極的に触れるようにしてください。
評価方法	期末試験（90%）、DVD視聴の感想・意見（10%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
堀田 学			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 国際関係論の理論を理解する。 2. グローバルな課題を理解する。 3. 国際問題を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 国際関係論とは何か</p> <p>第2回 20世紀の国際関係1（2つの世界大戦と国際関係）</p> <p>第3回 20世紀の国際関係2（冷戦時代の国際関係）</p> <p>第4回 20世紀の国際関係3（ポスト冷戦時代の国際関係）</p> <p>第5回 現代の国際関係（9・11以降の国際関係）</p> <p>第6回 国際関係理論1（リアリズム）</p> <p>第7回 国際関係理論2（リベラリズム）</p> <p>第8回 国際機関</p> <p>第9回 欧州統合</p> <p>第10回 民族紛争・宗教対立1（中東）</p> <p>第11回 民族紛争・宗教対立2（中東）</p> <p>第12回 民族紛争・宗教対立3（ヨーロッパ）</p> <p>第13回 安全保障1（軍事）</p> <p>第14回 安全保障2（食糧・環境）</p> <p>第15回 これからの国際関係</p>
授業概要	現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ニュースや新聞などの国際面を読んで、刻々と変わる国際情勢の把握に努めてください。
評価方法	期末試験（70％）、DVD視聴の感想・意見（30％）
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論（第3版）』弘文堂、2018年 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ（第3版）』有斐閣、2023年 小原雅博『大学4年間の国際政治学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2021年
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
磯崎 匡			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1, 現代社会のありようを理解し, 分析することができる。 2, 分析した結果をもとに考察し自分の言葉で説明することができる。
授業計画	第1回 現代社会とはいかなる時代か？ 第2回 理論と学説 第3回 相互行為 第4回 組織と集団 第5回 レポート作成 第6回 家族 第7回 ジェンダーとセクシュアリティ 第8回 教育 第9回 産業と労働 第10回 レポート作成 第11回 文化 第12回 メディアとコミュニケーション 第13回 地域と都市 第14回 災害と環境 第15回 レポート作成
授業概要	私たちが生きるこの現代社会について、様々な観点から議論してそのありようを描き出す。前半ではミクロからマクロへと展開して、現代社会の基本的な捉え方を解説する。後半では具体的な社会現象を分析するとどうなるかを考えていく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	様々な社会現象について常にアンテナを張るように、日々のニュースや新聞を見聞きし、自分の問題意識を醸成する。
テキスト	指定テキストはなし。毎時間資料を配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業では、出欠確認の代わりに毎日小レポートを課す。成績はその小レポートと別途指定する最終レポートを合算して評価する。
評価方法	小レポート40%、最終レポート60%
参考文献	授業中適宜指定する。
備考	

講義科目名称：ジェンダー論（60160）

授業コード：60160

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
山田 彩起子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	①ジェンダーとは何か、②現在では当然のように存在する男女間の様々な問題の発生原因はどこにあるのか、の2点を理解することを目指します。		
授業計画	第1回	ジェンダーとは何か	
	第2回	男女の共労と分業 政治とジェンダー	
	第3回	職業とジェンダー	
	第4回	婚姻とジェンダー	
	第5回	家とジェンダー	
	第6回	政治とジェンダー	
	第7回	財産とジェンダー	
	第8回	教育とジェンダー	
	第9回	美術・文芸とジェンダー	
	第10回	天皇制とジェンダー—女帝の問題を中心に—	
	第11回	穢れとジェンダー	
	第12回	同性愛	
	第13回	異性装	
	第14回	芸能とジェンダー	
	第15回	買売春	
授業概要	ジェンダーをめぐる問題はいつどのように発生したのか、歴史を遡って講義します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業では様々なテーマを扱います。その中から関心あるテーマを見つけ出し、レジユメの参考文献一覧にある先行研究を読んで知見を広めて下さい。		
テキスト	毎回レジユメを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	期末レポートでは、授業内容に関わる先行研究のうちの何れか1本を読んでその要約と意見を書いていただきます。時間外学習の項目にも書きましたが、自分の関心あるテーマを見つけて先行研究から大いに学び、自分なりの考えを発展させて下さい。		
評価方法	期末レポート100%		
参考文献	毎回レジユメに記載します。		
備考			



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択
担当教員			
金谷 由希			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 「健康」の概念と、健康を維持増進するための「栄養」の重要性を理解する。 2. 現在及び将来の実生活において、健康の維持増進に有用な食生活の実践方法を習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・健康と栄養について学ぶ意義 授業の進め方や評価方法について説明する。健康とは何か、健康づくりの三要素の一つである栄養とは何か、それらを学ぶことでどのように実生活に活かすことができるかを学ぶ。</p> <p>第2回 生活習慣病と栄養（生活習慣病の概念、食塩と高血圧） 生活習慣病とは何か。私たちの健康と食塩の関係について学ぶ。</p> <p>第3回 生活習慣病と栄養（肥満問題） 肥満大国であるアメリカを例に、肥満について学ぶ。</p> <p>第4回 生活習慣病と栄養(酒) どんなお酒をどのくらい、どのように飲むべきかを学ぶ。</p> <p>第5回 地中海食とは よく耳にする地中海食とは何か、なぜ健康食と言われるのかを学ぶ。</p> <p>第6回 健康的な食事とは 野菜、卵、食塩、全粒穀物等を例に、健康的な食事とは何かを考える。</p> <p>第7回 ビタミン ビタミンの歴史と欠乏症について学ぶ。</p> <p>第8回 栄養健康情報の受けとめ方 飛び交う栄養健康情報に惑わされないために、情報の受けとめ方について考える。</p>
授業概要	栄養や食事に関するこれまでの先行研究を紹介する。そのうえで、健康と栄養の基礎やその関係を学ぶ。具体的には、栄養の過不足により生じる健康障害、特に生活習慣病等の疾病と食、食の歴史と食文化、健康の維持増進のために有用な食生活の実際等について学ぶ。
実務経験及び授業の内容	障がい者支援施設における管理栄養士としての実務経験があり、この経験を生かして栄養に関する講義を行う。
時間外学習	日頃から、健康や食・栄養に関する情報を、図書や新聞で収集しながら、授業で学んだことを実生活に活かす方策を考え、整理しておくこと。
テキスト	テキスト：使用しない。 必要な資料は、授業中に配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	私たちの体は食べた物でできている。食べることの大切さを知り、それを自身の生活に取り入れられるような授業を展開していきたい。
評価方法	授業内の小テスト70%、レポート30%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石澤 靖典			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	美術作品の見方や分析方法を学びます。美術が社会や歴史、文学をはじめとする他の芸術形式とどのような関係にあるかを理解し、作品に対して学問的にアプローチするための手法を身につけます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 美術の歴史（古代からルネサンスまで）</p> <p>第3回 美術の歴史（バロックからロココまで）</p> <p>第4回 美術の歴史（19世紀の美術）</p> <p>第5回 美術の歴史（20世紀の美術）</p> <p>第6回 芸術の方法論（美術と文学）</p> <p>第7回 芸術の方法論（花と庭園の図像学1）</p> <p>第8回 芸術の方法論（花と庭園の図像学2）</p> <p>第9回 芸術の方法論（図像解釈学）</p> <p>第10回 芸術の方法論（芸術と心理学）</p> <p>第11回 芸術の方法論（芸術と社会）</p> <p>第12回 美術作品の分析（バロック美術）</p> <p>第13回 美術作品の分析（近代美術）</p> <p>第14回 美術作品の分析（現代美術）</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	前半ではおもに西洋の美術作品を例に挙げながら、様式論や図像学、心理学的アプローチなどの方法論を解説し、後半では作品分析を実践するための具体例を提示します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	美術展覧会や関連図書を通じ、日頃から芸術に対する興味・関心を持つこと。
テキスト	とくに教科書は指定しません。参考書については随時授業中に紹介します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の内容について関心を引くテーマがあれば、自分なりに参考書を読むなどして、さらに知見を深めるとよいでしょう。
評価方法	筆記試験（60％）と授業への参加度（40％）により評価します。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ワープロソフトのワードとプレゼンテーションソフトのパワーポイントの基本操作を習得するとともに、ビジネス文書を作成するための基本要領と留意点を学びます。日商PC検定試験3級に合格するレベルを到達目標とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス パソコンとメールソフトの基本操作	
	第2回	日本語入力、ファイル操作 ワープロソフトの基本操作と文字列の編集	
	第3回	文書の書式・体裁を整える操作 文字修飾・文字強調	
	第4回	ビジネス文書（社内・社外向け）の基本構成 箇条書き、記述記号の使い方	
	第5回	表の作成とレイアウト設定	
	第6回	表の書式設定とレイアウト変更	
	第7回	ビジネス文書（社内・社外文書）の種類と雛形	
	第8回	図解の基本 図の作成（1）：基本図形の利用方法	
	第9回	図の作成（2）：図形の書式設定	
	第10回	図の作成（3）：図形のレイアウト設定	
	第11回	図表のあるビジネス文書の留意点と練習	
	第12回	プレゼンテーションスライドの制作(1)：テーマ設定とテキストの追加・編集	
	第13回	プレゼンテーションスライドの制作(2)：図表の追加と書式設定	
	第14回	プレゼンテーションスライドの制作(3)：アニメーション効果 発表ノートと配布資料の作成	
	第15回	総合課題	
授業概要	毎回、学習テーマを設定し、操作方法を説明しながら一緒に操作練習をしたあと、学習テーマに沿った課題をこなすことで基本的操作を習得できるようにします。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業中にわからなかったパソコン用語の意味を調べたり、ソフトウェアを繰り返して使うことが必要です。空き時間などを活用してタイピング練習をしてください。		
テキスト	資料を適宜配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	専門用語をたくさん覚えなければいけないため結構戸惑うし、教員の説明を受けながらパソコンを操作しなければならぬためついていけないと思うかもしれませんが、いつでも気軽に手を挙げて質問してください。		
評価方法	授業内課題（70%）と期末総合課題（30%）		
参考文献	授業中適宜提示します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトの基本的操作を習得します。授業の後半でプレゼンテーション用にパワーポイントの基本的操作を習得します。日商PC検定試験の3級に合格するレベルを目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パソコンとメールソフトの基本操作</p> <p>第3回 タイピング、日本語入力、ファイル操作</p> <p>第4回 ワープロソフトの基本操作</p> <p>第5回 レイアウトと書式設定(1) (文字の修飾など)</p> <p>第6回 レイアウトと書式設定(2) (罫線など)</p> <p>第7回 表の作成(1) (基本)</p> <p>第8回 表の作成(2) (応用)</p> <p>第9回 レイアウトと書式設定(3) (拡張書式設定)</p> <p>第10回 ビジネス文書(1) (社内文書)</p> <p>第11回 ビジネス文書(2) (社外文書)</p> <p>第12回 プレゼンテーションスライドの制作(1) (テーマ設定とアウトライン)</p> <p>第13回 プレゼンテーションスライドの制作(2) (基本操作)</p> <p>第14回 プレゼンテーションスライドの制作(3) (アニメーション効果)</p> <p>第15回 総合課題</p>
授業概要	授業では毎回学習テーマを設定し、まずチュートリアルによるソフトの機能説明とともに操作を練習した後、対応する課題演習を行い、基本的操作を習得できるようにします。
実務経験及び授業の内容	第一種情報処理技術者（旧通商産業省）の国家資格を有し、プログラマ/システムエンジニアとしての実務経験があります。その経験を反映したシステムの解説を行います。
時間外学習	授業で解説した内容に対応する課題を次回までに提出してもらいます。空き時間などを活用して作業することを求めます。
テキスト	資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「コンピュータは苦手」という方でも定式化されたやり方で文書作成を行うことで、ビジネス文書やプレゼンスライドを作成することは困難ではありません。気軽に取り組めるようになりましょう。
評価方法	授業内課題（70%）、期末課題（30%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ワープロソフトのワードの基本操作を習得するとともに、正しくて伝わりやすい文書作成上の留意点を学びます。日商PC検定試験3級に合格するレベルを到達目標とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス (情報リテラシーと評価の方法)	メール文書の作成と送信
	第2回	社内文書の作成 (社内連絡書)	
	第3回	社内文書の作成 (社内提案書)	
	第4回	社外文書の作成 (社外連絡書)	
	第5回	仕事を想定した文書の作成 (社内連絡書・社外連絡書・社外メール文書)	
	第6回	ビジネスでよく使う日本語文法の基本 図解の利用方法	ここまでの知識の確認
	第7回	文書管理の基本知識 図解の利用	ビジネス文書作成の留意点
	第8回	ビジネス文書作成の留意点確認	表のあるビジネス文書の作成 (基本)
	第9回	図形のあるビジネス文書の作成 (基本)	表のあるビジネス文書の作成 (応用)
	第10回	図形のあるビジネス文書の作成 (応用)	図表のあるビジネス文書の留意点
	第11回	演習	
	第12回	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの留意点	
	第13回	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの作成	
	第14回	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの作成と吟味	
	第15回	総合課題	
授業概要	内容説明と演習を効果的に配分して課題解決力を高めていきます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	学習した操作を繰り返し復習してください。		
テキスト	必要に応じて資料を配布します。		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	正しい文書表現や適切な図表を使ってビジネス文章を作成できることは、丁寧な文字で文章を書くことと同じように今後の社会生活で役立ちます。情報リテラシーを少しずつ高めていきましょう。		
評価方法	授業の出席と授業内課題 (70%) 期末課題 (30%)		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>文書作成の基礎的な手法を習得し、学生生活の場面に応じて適切な文書を作成する。Office365の諸機能を使って「会議」（画面共有や動画通信）参加やデータの共有を実践する。</p> <p>*日商PC検定(文書作成)Basic～3級程度の難易度を想定しています。</p>
授業計画	<p>第1回 目標と方針の共有／パソコンの基本動作確認</p> <p>第2回 目標と方針の共有(再)／Office365の基本機能確認</p> <p>第3回 ビジネス文書の基本解説／課題解説</p> <p>第4回 ビジネス文書のライティング技術解説／課題解説</p> <p>第5回 電子メールのライティング技術解説／課題解説／ウェブ面談(1)</p> <p>第6回 ビジネス図解の基本解説／課題解説／ウェブ面談(2)</p> <p>第7回 ビジネス文書の管理解説／課題解説／ウェブ面談(3)</p> <p>第8回 課題解説／ウェブ面談(4)</p> <p>第9回 大学の講義で求められるPCスキルの解説／課題解説 /ウェブ面談(5)</p> <p>第10回 Power Pointの基本動作確認／ウェブ面談(6)</p> <p>第11回 Excelの基本動作確認／ウェブ面談(7)</p> <p>第12回 ウェブ面談(8)</p> <p>第13回 ウェブ面談(9)</p> <p>第14回 ウェブ面談(10)</p> <p>第15回 Power Point、Excel諸機能の解説</p>
授業概要	<p>・本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題や会議機能を活用し、当該到達目標に即した技術を習得します</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>・授業時間中におこなうのは主に課題に関する全体への解説とオンライン面談による個別の進捗確認です。課題については、授業時間では足りなければ空き時間などに作業をしてもらうことになります。</p>
テキスト	なし
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	<p>・日商PC検定3級は、「指示に従い、ビジネス文書の雛形や既存文書を用いて、正確かつ迅速にビジネス文書を作成することができる」状態を目指します。該当の難易度がどの程度であるかを確認し、ご自身の目標にそぐわないと感じる場合は他の科目の受講を検討してください。</p> <p>・社会情報学科助手と講師による進捗確認を希望する場合は該当の教室から参加してください。Teamsの会議機能を使って遠隔から講義へ参加することも可能です。</p>
評価方法	課題：100%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	実社会で汎用的に使用されているMicrosoft社のWordに関する基本的操作を学修して、基礎的なビジネス文書やビジネスメールの作成ができる能力を身に付けることが本講義の到達目標である。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パソコンの基本操作：起動と終了、メールの送受信</p> <p>第3回 タイピングと日本語入力(Part. 1)：キーボードによる日本語入力(基礎編)</p> <p>第4回 タイピングと日本語入力(Part. 2)：キーボードによる日本語入力(応用編)</p> <p>第5回 メールライティング技術：ビジネスメールの基本的作法</p> <p>第6回 ビジネス文書作成(Part. 1)：文章の入力と編集</p> <p>第7回 ビジネス文書作成(Part. 2)：文章の配置変更と装飾</p> <p>第8回 視覚表現のあるビジネス文書(Part. 1)：表の挿入とレイアウト変更</p> <p>第9回 視覚表現のあるビジネス文書(Part. 2)：表の書式設定と表内数値計算</p> <p>第10回 視覚表現のあるビジネス文書(Part. 3)：図形の挿入と書式設定</p> <p>第11回 日商PC検定(文書作成3級)の模擬試験の実施</p> <p>第12回 日商PC検定(文書作成3級)の模擬試験の解答と解説</p> <p>第13回 PowerPointの基本的操作(Part. 1)：基本的な操作方法とスライド作成</p> <p>第14回 PowerPointの基本的操作(Part. 2)：視覚表現を用いたレトリック</p> <p>第15回 総括</p>
授業概要	Microsoft社のWordおよびPowerPointを使用した演習形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] 取り扱う用語や手法を事前に確認すること(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用・閲覧することが好ましい。</p>
テキスト	レジュメを適宜配布する形式を採用する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	WordやPowerPointなどのソフトウェアは、失敗したとしても「元に戻す」でやり直すことができます。何度失敗しても構いません。少しずつ丁寧にやり続けることで、誰でもできるようになります。「できた!」という体験を積み重ねて、成功することや達成することの喜びを感じつつ、知識や技能を修得していきましょう。
評価方法	試験(100%)
参考文献	富士通エフ・オー・エム(2021).『日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト&問題集』FOM出版。
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
未定			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 表計算の三つの基本機能(集計, グラフ表示, 簡易データベース)を習得する. 2. 関数の働きを理解して計算式を書き表すなど, 考える力と実践的な処理能力を養う.
授業計画	<p>第1回 ガイダンス Teamsの水曜1限: 60221情報処理演習Ⅱ(国・日)→Class Notebook→コンテンツライブラリー→講義の説明→講義の説明で講義方法や評価方法等の説明をしていますので, よく読んでください.</p> <p>第2回 データ入力の基本</p> <p>第3回 表のレイアウト</p> <p>第4回 数式の利用</p> <p>第5回 Sheetのリンク</p> <p>第6回 グラフの作成・印刷</p> <p>第7回 課題①</p> <p>第8回 課題①の解答・データベース</p> <p>第9回 関数①: if関数など</p> <p>第10回 関数②: sumif関数など・集計表</p> <p>第11回 ピボットテーブル</p> <p>第12回 課題②</p> <p>第13回 課題②の解答・第1回～第12回の復習</p> <p>第14回 期末課題</p> <p>第15回 期末課題の解答</p>
授業概要	講義は解説と演習によって構成されます. 解説では一緒に操作練習をし, 演習では例題や課題を自分の頭で考えながらこなしていくことで, 表計算を実際の問題の処理に活用する能力を鍛えます.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習: 必要ありません. 復習: 学習したことの定着のために必要な方は練習をしてください(0分～1時間程度, 各自の習得状況によります).
テキスト	資料を配布します.
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Wordに比べて敷居が高く感じるかもしれませんが, 操作方法はWordに似ています. Excelが使えるようになるとWordよりも表現範囲が増えます.</li> <li>進学・就職のお供にどうぞ♪</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認課題2回(25%×2)と期末課題(50%)で評価します.</li> <li>遠隔授業の場合は課題で評価しますが, その数・量・期限等は遠隔授業の期間の長さに応じて変更します. 詳しくは, 第1回の講義で説明いたします.</li> </ul>
参考文献	
備考	※記載内容は, 前年度の講義計画ですので参考程度にご覧ください. ※本科目における講義計画は, 担当教員が決定し次第更新しますので, 学務システムからご確認ください.



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ビジネスシーンにてオフィスツールとして利用頻度の高い表計算ソフトの使い方や機能についての理解を深める。 【到達目標】表計算ソフトウェアを使う上で必須の基本機能（表計算、グラフ作成、関数等）を操作できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 各回の授業ではタイピング課題に取り組みます。</p> <p>第2回 表計算ソフトウェアとは 授業では表計算ソフトウェアとしてMicrosoft Excelを使用します。</p> <p>第3回 表計算ソフトウェアの基本的な操作</p> <p>第4回 表の作成、セルの参照、数式 課題1</p> <p>第5回 関数の取り扱い 課題2</p> <p>第6回 関数を使いこなす 課題3</p> <p>第7回 関数を用いた状況に応じた処理の取り扱い 課題4</p> <p>第8回 グラフの作成と編集 課題5</p> <p>第9回 さまざまな種類のグラフの作成 課題6</p> <p>第10回 複合グラフの作成 課題7</p> <p>第11回 簡易データベースとしての利用 課題8</p> <p>第12回 ピボットテーブルによる集計</p> <p>第13回 ピボットテーブルによる集計 課題9</p> <p>第14回 総合実践（ABC分析） 課題10</p> <p>第15回 まとめ 期末課題</p>
授業概要	実務で利用されることの多い表計算ソフトの使い方や機能を演習形式で習得し、履修者全員が大学での学びや活動に必要なレベルに到達するとともに、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付ける。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし情報処理演習Ⅱの授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として課題を課します。これまでの学習内容のすべてを確認したうえで、課された課題に取り組み、提出期日までに提出してください。
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	新しい知識や技術の習得は、毎回の授業(演習)を積み重ねていくことにより達成されるものです。授業を欠席しないことはもとより、授業内容を理解し習得できるよう留意して臨んでほしい。授業内で実施するタイピングの練習にも真剣に取り組んでほしい。呼名により出席確認をします。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。授業時課題の得点の合計(10点×10回=100点満点)を40%、授業時間内タイピング課題(3点×15=45点満点)を20%、期末課題を40%。授業時間内タイピング課題は指定の時間内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。タイピング課題の遅れ提出は評価対象外とします。授業時課題は配布された課題ファイルで完成させた課題のみ採点を行います。課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。
参考文献	図書館にはExcelに関連する本が数多く所蔵されています。
備考	必携：USBメモリ・講義資料

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日商PC検定(データ活用)3級程度の内容を想定しながらMicrosoft社のExcelの基本的操作を学修し、業務遂行に求められる操作知識を理解して活用できる能力を身に付けることが本講義のテーマである。 実社会で汎用的に使用されているMicrosoft社のExcelに関する基本的操作を学修して、基礎的なビジネス文書やビジネスメールの作成ができる能力を身に付けることが本講義の到達目標である。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 業務に応じた計算処理：四則演算や関数を使った計算処理</p> <p>第3回 業務に応じた集計処理：並び替え、単純集計、クロス集計</p> <p>第4回 業務データの分析、グラフ化、ABC分析、Zチャート</p> <p>第5回 業務データの保管：ファイルの管理、フォルダーによる分類</p> <p>第6回 表の作成(Part.1)：データの入力、書式設定</p> <p>第7回 表の作成(Part.2)：数式の入力、表示形式の設定</p> <p>第8回 表の作成(Part.3)絶対参照の数式の入力、表の作成</p> <p>第9回 データの集計(Part.1)：データの集計機能、ピボットテーブル</p> <p>第10回 データの集計(Part.2)：集計機能による集計、関数による集計</p> <p>第11回 グラフの作成(Part.1)：グラフの作成手順と構成要素</p> <p>第12回 グラフの作成(Part.2)：グラフの作成、複合グラフの作成</p> <p>第13回 総合演習(Part.1)</p> <p>第14回 総合演習(Part.2)</p> <p>第15回 総括</p>
授業概要	Microsoft社のExcelを使用した演習形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] 取り扱う用語や分析手法を事前に確認すること(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用・閲覧することが好ましい。</p>
テキスト	レジュメを適宜配布する形式を採用する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	Excelは失敗したとしても「元に戻す」でやり直すことができます。何度失敗しても構いません。少しずつ丁寧にやり続けることで、誰でもできるようになります。「できた!」という体験を積み重ねて、成功することや達成することの喜びを感じつつ、知識や技能を修得していきましょう。
評価方法	課題提出(100%)
参考文献	富士通エフ・オー・エム(2021).『日商PC検定試験 データ活用 3級 公式テキスト&問題集』FOM出版。
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	表計算ソフトエクセルの基本操作を習得するとともに、数値を整理および分析することの必要性とその方法を学びます。日商PC検定試験3級に合格するレベルを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスとエクセルが使われる実務場面</p> <p>第2回 データ入力と計算処理の基本（基本関数と演習）</p> <p>第3回 表の作成と関数利用の基本（IF関数と演習）</p> <p>第4回 業務でよく使用する計算（割引、構成比、原価率など）</p> <p>第5回 業務でよく使用する集計（単純集計、クロス集計など）</p> <p>第6回 データ管理と分析（グラフ化、ABC分析など）</p> <p>第7回 業務書類の作成</p> <p>第8回 ここまでのまとめと演習</p> <p>第9回 集計機能（小計の計算機能と演習）</p> <p>第10回 ピボットテーブル（その利便性と演習）</p> <p>第11回 関数集計（COUNTIF関数、SUMIF関数と演習）</p> <p>第12回 グラフ機能（グラフの作成）</p> <p>第13回 グラフ機能（複合グラフの作成）</p> <p>第14回 第14回までの既習事項をふまえた課題の解決</p> <p>第15回 総合課題</p>
授業概要	操作解説と演習を効果的に配分して、問題解決力を高めていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	学習した操作を繰り返し復習してください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	エクセルはワードよりも難しく感じると思います。学習内容の定着が図れるように授業を構成したいと思っておりますので、みなさんも努力して授業に、そして特に復習に取り組んでください。
評価方法	授業の出席と授業内課題（70%） 期末課題（30%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】業務データの処理・分析など、将来のビジネスパーソンとして必要な情報リテラシーの素養の基礎を身につける。</p> <p>【到達目標】日商P C検定試験データ活用2級〔実技科目〕合格レベル相当の表計算ソフトウェアの操作を行える。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、データ入力の基本 各回の授業ではタイピング課題に取り組む。表計算ソフトウェアとして、Microsoft Excelを使用する。</p> <p>第2回 データ分析に利用する基礎的な計算、データ分析によく使用する機能</p> <p>第3回 表作成の活用</p> <p>第4回 表作成の活用とデータ処理における計算</p> <p>第5回 表作成の活用・表からの該当データの検索 課題1</p> <p>第6回 ピボットテーブルの活用</p> <p>第7回 ピボットテーブルの編集 課題2</p> <p>第8回 グラフの活用（レーダーチャート、散布図）</p> <p>第9回 グラフの活用（ABC分析、パレート図）</p> <p>第10回 グラフの活用（近似直線の追加） 課題3</p> <p>第11回 総合実践（模擬試験問題に挑戦）</p> <p>第12回 総合実践（模擬試験問題に挑戦）</p> <p>第13回 総合実践（模擬試験問題に挑戦）</p> <p>第14回 総合実践（模擬試験問題に挑戦）</p> <p>第15回 まとめ 日商P C検定試験データ活用〔実技科目〕の2級程度の問題に挑戦する</p>
授業概要	パソコン・表計算ソフトウェアを利用した情報活用について、毎回実践的に演習していくことにより、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身につける。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし応用情報処理演習 I の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として課題を課します。授業を踏まえて教科書を今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理したうえで、授業時課題に取り組み、提出期日までに提出してください。
テキスト	日本商工会議所編「よくわかるマスター 日商P C検定試験 データ活用 2級 公式テキスト&問題集 Excel 2019/2016対応」、FOM出版、3,300円（税込価格）、ISBNコード：978-4-938927-31-8
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	履修条件は、①日商P C検定データ活用3級合格、または②日商P C検定データ活用3級合格相当のスキルを有する方とします。呼名により出席確認をします。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。授業時課題の得点の合計(各課題の配点の総合計を満点とする)を40%、授業時間内タイピング課題(3点×15=45点満点)を20%、まとめの試験(各問題の配点の総合計を満点とする)を40%。まとめの試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。授業時間内タイピング課題は指定の時間内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。タイピング課題の遅れ提出は評価対象外とします。授業時課題は配布された課題ファイルで完成させた課題のみ採点を行います。課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。

参考文献	日商P C 検定試験データ活用に関するテキストが図書館などに数多く所蔵されています。
備考	必携：教科書・USBメモリ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有
授業形態：講義・演習			

授業のテーマ及び到達目標	「応用情報処理演習Ⅲ」と合わせて、この授業では、商業簿記の簿記一巡の手続きについて学習する。「日商簿記検定3級」で求められている簿記会計の知識と実践的なスキルの習得を到達目標としている。
授業計画	<p>第1回 簿記の基本 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 仕訳・その1</p> <p>第3回 仕訳・その2</p> <p>第4回 仕訳・その3</p> <p>第5回 仕訳・その4</p> <p>第6回 人名勘定</p> <p>第7回 補助簿</p> <p>第8回 総勘定元帳</p> <p>第9回 試算表</p> <p>第10回 伝票・証ひょう</p> <p>第11回 決算整理仕訳・その1</p> <p>第12回 決算整理仕訳・その2</p> <p>第13回 決算整理仕訳・その3</p> <p>第14回 精算表</p> <p>第15回 帳簿の締め切り・貸借対照表・損益計算書</p>
授業概要	「応用情報処理演習Ⅲ」の同時履修が必要である。本授業では「解説」と基本的な手続きを学習して、「応用情報処理演習Ⅲ」では実践的な問題を解く。様々な分野で活躍されている10万人ほどの老若男女の方が、毎年、簿記3級を受験している。このことから、「日商簿記検定3級」を受ける方だけではなく、社会人には欠かせない知識とスキルの一つと言えます。
実務経験及び授業の内容	「日商簿記検定3級」の範囲を網羅するので、仕訳、転記、試算表、決算、精算表、財務諸表などについて学習する。
時間外学習	本科目では、1時間の事前学習、3.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、簿記一巡の手続きの理解、財務諸表の作成スキルなどの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	授業で指定する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>検定試験の対策を兼ねて、短期集中的にたくさんの課題をこなしながら簿記3級の範囲を網羅します。</p> <p>なお、簿記の知識とスキルは、私たちの生活や経済、企業などの相互作用を理解するのに重要なので、学生のうちに身に付けてください。</p>
評価方法	<p>授業課題およびノートの点検：40% 期末試験：40% 平常点：20%</p> <p>減点の対象：  (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動  授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある</p>
参考文献	初回に紹介する。
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有
授業形態：講義・演習			

授業のテーマ及び到達目標	「応用情報処理演習II」と合わせて、この授業では、商業簿記の簿記一巡の手続きについて学習する。「日商簿記検定3級」で求められている簿記会計の知識と実践的なスキルの習得を到達目標としている。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、基本的な概念の問題 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 仕訳・その1の演習問題</p> <p>第3回 仕訳・その2の演習問題</p> <p>第4回 仕訳・その3の演習問題</p> <p>第5回 仕訳・その4の演習問題</p> <p>第6回 人名勘定の演習問題</p> <p>第7回 補助簿の演習問題</p> <p>第8回 総勘定元帳の演習問題</p> <p>第9回 試算表の演習問題</p> <p>第10回 伝票・証ひょうの演習問題</p> <p>第11回 決算整理仕訳・その1の演習問題</p> <p>第12回 決算整理仕訳・その2の演習問題</p> <p>第13回 決算整理仕訳・その3の演習問題</p> <p>第14回 精算表の演習問題</p> <p>第15回 締め切り・貸借対照表・損益計算書の演習問題</p>
授業概要	「応用情報処理演習II」の同時履修が必要である。「応用情報処理演習II」本授業では「解説」と基本的な手続きを学習して、本授業では実践的な問題を解く。様々な分野で活躍されている10万人ほどの老若男女の方が、毎年、簿記3級を受験している。このことから、「日商簿記検定3級」を受ける方だけではなく、社会人には欠かせない知識とスキルの一つと言えます。
実務経験及び授業の内容	「日商簿記検定3級」の範囲を網羅するので、「授業計画」のとおり、「授業計画」のとおり、仕訳、転記、試算表、決算、精算表、財務諸表などについて学習する。
時間外学習	本科目では、1時間の事前学習、3.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、簿記一巡の手続きの理解、財務諸表の作成スキルなどの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	授業で指定する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	検定試験の対策を兼ねて、短期集中的にたくさんの課題をこなしながら簿記3級の範囲を網羅します。 なお、簿記の知識とスキルは、私たちの生活や経済、企業などの相互作用を理解するのに重要なので、学生のうちに身に付けてください。
評価方法	授業課題およびノートの点検：40% 期末試験：40% 平常点：20% 減点の対象 (1)公欠以外の欠席や無断退室等 (2)遅刻（出欠確認後） (3)携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	初回に紹介する。
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。

講義科目名称：英語一（60310）

授業コード：60310

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石田 陽子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	(1) 高校で学習していながらピンときていない文法を復習する。(2) 基本的な語彙を品詞を意識しながら復習するとともに新しく語彙を増やす。(3) 簡単なdictationをして英語の音声を聞く時間を持つ (4) 子供のころから学び続けてきた英語を大学を卒業して社会人になっても学び続けるヒントを見つける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 Unit 1 Invention Needed: Th Sillier the Better</p> <p>第3回 Unit 2 Artisan from Abroad Protects Tradition</p> <p>第4回 Unit 3 World Traveler, Starting by Accident</p> <p>第5回 Unit 4 International Volunteers Help Children in Need</p> <p>第6回 Unit 5 Public Servant Coes Private</p> <p>第7回 Unit 7 Building Playgrounds in Disaster-Hit Comunities</p> <p>第8回 Unit 8 Climate Change Activist Comes of Age</p> <p>第9回 Unit 9 Tech for Pets Takes Off</p> <p>第10回 Unit 10 Hairdressers Given a Shot at Independence</p> <p>第11回 Unit 11 Japanese Tradition Reinvented to Help Global Farming</p> <p>第12回 Unit 12 Green Tea chochu Hits the Spot with Overseas Connoisseurs</p> <p>第13回 Unit 13 Looking to the Future in "Japanese Town"</p> <p>第14回 Unit 14 A Recollection of Courage</p> <p>第15回 Unit 15 Indoor Farms Sprouting Up in Citeis</p>
授業概要	(1) 映像を見る。(2) 簡単なdictationをする。(3) 予習を発表してもらい、必要な文法を解説する。(4) 文法や語彙の復習問題で確認する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	映像を何度も視聴すること。本文を辞書を使いながら読んでくること。
テキスト	Tatsuroh Yamazaki 他著, NHK Newslne 6, (金星堂出版) ISBN978-4-7647-4170-6 C1082 ¥2,400
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	高校で使っていた辞書と文法の解説書を用意してください。(教室ではスマホやPCによるネット検索は許可しませんので、必要な場合は予習段階で利用してください。)
評価方法	授業時間にする小テスト40%、課題40%、授業への取り組み(発表や予習などの準備)20%
参考文献	
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習・講義

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本英文法を再確認します。</li> <li>2. 構文を理解して英文読解の基礎力をつけることを目標とします。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 Intoroduction：5文型について</p> <p>第2回 Unit 1 名詞 ・ Unit 2 冠詞</p> <p>第3回 Unit 3 代名詞（1） ・ Unit 4 代名詞（2）</p> <p>第4回 Unit 5 時制 ・ Unit 6 進行形</p> <p>第5回 Unit 7 完了形（1） ・ Unit 8 完了形（2）</p> <p>第6回 Unit 9 助動詞（1） ・ Unit 10 助動詞（2）</p> <p>第7回 Unit 11 態（1） ・ Unit 12 態（2）</p> <p>第8回 Unit 13 不定詞（1） ・ Unit 14 不定詞（2）</p> <p>第9回 Unit 15 分詞（1） ・ Unit 16 分詞（2）</p> <p>第10回 Unit 17 動名詞（1） ・ Unit 18 動名詞（2）</p> <p>第11回 Unit 19 形容詞・副詞 ・ Unit 20 比較（1）</p> <p>第12回 Unit 21 比較（2） ・ Unit 22 前置詞</p> <p>第13回 Unit 23 関係詞（1） ・ Unit 24 関係詞（2）</p> <p>第14回 Unit 25 仮定法（1） ・ Unit 26 仮定法（2）</p> <p>第15回 まとめ：構文の理解</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語が苦手だけれども、チャレンジしたい学生向けの授業とします。</li> <li>・ 特に英文法の復習を目的とします。</li> <li>・ テキストの構成は、前半が文法説明とその練習問題、後半は短いエッセイです。</li> <li>・ 授業では1回に2課進むことを目標にします。</li> <li>・ 画像、動画、音楽などを紹介し異文化理解を深めてもらいます。</li> </ul>
実務経験及び授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立高等学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし英語二の授業を行う。</li> </ul>
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中にわからなかった語句の意味を調べてください。</li> <li>・ 予習ノートを作り授業の予習をしてきてください。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『読解力につなげるコア英文法』（朝日出版）1,600円（本体価格）ISBN 978-4-255-15638-5 <b>【購買部のさわらびで購入できます】</b></li> </ul>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解答の提示はPower Pointを使います。</li> <li>・ 辞書を教室に持ってくるように（電子辞書も可）</li> <li>・ 学務システムを利用して出席を取ります。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加度（50%）、筆記試験（50%）</li> </ul>
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本授業は、現代社会の重要テーマについて書かれた文章の読解を通して、英文を正確に読むために必要な語彙力と読解力の獲得を目標とします。 具体的な到達目標は次の通り。 ①授業で扱う語彙の意味を言うことができる。 ②授業で扱う英文を正確に読むことができる。		
授業計画	第1回	イントロダクション	
	第2回	Chapter 1 Universal Basic Income	
	第3回	Chapter 2 Farms without Land	
	第4回	Chapter 3 Facial Recognition	
	第5回	Chapter 4 Automated Transportation	
	第6回	Chapter 5 Machine Learning	
	第7回	Chapter 6 Where the Fish Grow	
	第8回	中間試験と振り返り	
	第9回	Chapter 7 Shaping the Future Factory	
	第10回	Chapter 8 Monitor Addiction	
	第11回	Chapter 9 Endless Education	
	第12回	Chapter 10 Drones that Patrol, Deliver, and Teach	
	第13回	Chapter 11 Energy Transition	
	第14回	Chapter 12 Artificial Intelligence	
	第15回	期末試験と振り返り	
授業概要	授業計画に沿って、教科書を進めていきます。内容理解の問題に答えながら英文を読み、訳読も行います。		
実務経験及び授業の内容	該当しない		
時間外学習	必ず予習をしたうえで授業に臨みましょう。英文を精読し、分からない語彙表現は調べ、和訳できるようにしておくとともに、問題に取り組むこと。また、授業後は復習をして知識の定着を図ることが大切です。		
テキスト	James M. Vardman, 野地薫『変わりゆく世界：明日の世界を考える15のトピック』（¥1900+税） ISBN: 978-4-7553-0053-0		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	現代社会の重要テーマについての理解を深めながら英語力を伸ばしましょう。		
評価方法	中間テスト（50%）、期末試験（50%）		
参考文献			
備考	授業には必ず辞書を持参してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 英語を辞書を使いながら、正しく読めるようになることを目標にします。</p> <p>2. 英語で書かれている内容を日本語にでき、重要なポイントを理解できるようになることを目指します。</p> <p>3. 英語で聞いたことを理解し、適切に答えることができることを目指します。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、評価方法についての説明 テキストの「INTRODUCTION」を読む。探偵小説とは。</p> <p>第2回 Unit 7 「ぶなの木屋敷の冒険」 pp. 46-8 英文を読み、内容に対するクイズに答える。</p> <p>第3回 Unit 7 「ぶなの木屋敷の冒険」 pp. 48-51 英文を読んで、内容を把握する。内容に関するクイズに答える。</p> <p>第4回 Unit 7 小テスト、Unit 8(1) Unit 7の小テスト Unit 8 pp. 52-3 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第5回 Unit 8 (2) pp. 54-7 英文を読んで内容を把握する。英語の音声聞いて質問に答える。</p> <p>第6回 Unit 8 小テスト Unit 9 (1) Unit 8 小テスト Unit 9 pp. 58-9 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第7回 Unit 9(2) pp. 60-3 英文を読んで、内容を把握する。英語音声聞いて質問に答える。</p> <p>第8回 Unit 9 小テスト Unit 10(1) Unit 9 小テスト Unit 10 pp. 64-65 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第9回 Unit 10 (2) pp. 66-9 英文を読んで、内容を把握する。英語音声聞いて質問に答える。</p> <p>第10回 Unit 10 小テスト Unit 11 (1) Unit 10 小テスト Unit 11 pp. 70-1 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第11回 Unit 11 (2) pp. 72-5 英文を読んで内容を把握する。英語音声聞いて質問に答える。</p> <p>第12回 Unit 11 小テスト Unit 12(1) Unit 11 小テスト Unit 12 pp. 76-7. 英文を読んで内容を把握する。英文の内容に対するクイズに答える。</p> <p>第13回 Unit 12(2) pp. 78-9 英文を読んで、内容を把握する。英語で問われた質問に対して、答える。</p> <p>第14回 Unit 12 英語の聞き取り。</p> <p>第15回 「ぶなの木屋敷の冒険」の映像資料を鑑賞 英国で制作されたTVドラマ『シャーロック・ホームズの冒険』から「ぶなの木屋敷の冒険」を鑑賞する。テキストとの相違点に注目してほしい。</p>		
授業概要	<p>サー・コナン・ドイルの19世紀末の探偵小説『シャーロック・ホームズの冒険』の中から「ぶなの木屋敷の冒険」を大学生向けに書きかえたテキストを読んでいきます。テキストは、英語を読んで、ストーリーを把握し、その内容に対するクイズに答える—という構成になっています。リスニング素材も充実しています。読む、聞く、書くの3点を勉強していきます。teamsを使って、聞き取りの解答を提出する。</p>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<p>次回の予習箇所を指定します。必ず予習して来ること。英文本文のわからない単語があれば調べ、日本語にできるようにして来ること。</p>		

テキスト	上村淳子他著 『Mystery Tour with Sherlock Holmes_ 『シャーロック・ホームズと巡るミステリーの旅』 センゲージ・ラーニング 2009年 1,850円+税
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	英語で書かれた小説の楽しみを味わってください。
評価方法	一つのユニットが終わるごとに小テストを行います (20点満点)。その結果で評価を行います。必ず受験してください。 全授業回数の3分の2以上欠席した場合、単位の認定は行いません。
参考文献	『シャーロック・ホームズの冒険』は、光文社文庫、角川文庫などから翻訳が出ています。
備考	状況によっては遠隔授業になります。その際は、teamsを利用した授業になります。適宜授業内容を変更します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 平易な英語で書かれた小説を読むことによって、基礎的な語彙力と文法力を身につけ、読解力の基礎を涵養する。 2. 物語の背景にある英語圏の文化と思想を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 英文読解の基礎①—一品詞</p> <p>第3回 英文読解の基礎②—5文型</p> <p>第4回 The Happy Prince を読む：準動詞を捉える</p> <p>第5回 The Happy Prince を読む：文型を捉える</p> <p>第6回 The Happy Prince を読む：関係詞を捉える</p> <p>第7回 The Happy Prince を読む：分詞の見極め方</p> <p>第8回 The Happy Prince を読む：that の見極め方 小テスト①</p> <p>第9回 The Happy Prince を読む：仮定法を捉える</p> <p>第10回 The Happy Prince を読む：動名詞を捉える</p> <p>第11回 The Happy Prince を読む：不定詞を捉える</p> <p>第12回 The Happy Prince を読む：分詞構文を捉える</p> <p>第13回 The Happy Prince を読む：同格を捉える</p> <p>第14回 The Happy Prince を読む：テキストの解釈について</p> <p>第15回 授業のまとめ：小テスト②</p>
授業概要	アイルランドの作家オスカー・ワイルド (Oscar Wilde, 1954) の童話 The Happy Prince を、基本的な語彙と文法に留意し、一文ずつ訳読しながら読み進めます。読解に必要な文法事項は適宜詳しく解説します。また、小説の読解を通じて、英語圏の文化と思想についても解説します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回指定された箇所について、辞書を丁寧に引いて予習すること。</li> <li>・ 授業で解説した文法事項について、辞書や文法書を活用して復習すること。</li> </ul>
テキスト	初回の授業でハンドアウトを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「英語五」に参加してください。</li> <li>・ 基本的な文法事項も詳しく解説し、できるだけ丁寧に読み進めたいと思います。</li> <li>・ 辞書を必ず用意し、毎回十分な予習を行って授業に臨んでください。</li> </ul>
評価方法	授業時間を実施する小テスト（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	適宜紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	様々な分野の情報について読みとったり聞き取ったりし、目的に応じてその情報や考えを理解することができ、更には複数の領域を統合した言語活動が行えるようになること、CEFR-B2以上を目標にする。更にはTOEICやTOEFLで高得点をとる方法を伝授する。異文化間コミュニケーション能力を育成する。
授業計画	<p>第1回 『異文化コミ』事例1; TOEIC (Test 1, 以下同様) Part 1解説</p> <p>第2回 『異文化コミ』事例2; TOEIC Part 2解説</p> <p>第3回 『異文化コミ』事例3; TOEIC Part 3解説と確認小テスト</p> <p>第4回 『異文化コミ』事例4; TOEIC Part 3解説</p> <p>第5回 『異文化コミ』事例5; TOEIC Part 4解説と確認小テスト</p> <p>第6回 『異文化コミ』事例6; TOEIC Part 4解説</p> <p>第7回 『異文化コミ』事例7; TOEIC Part 4解説</p> <p>第8回 『異文化コミ』事例8; TOEIC Part 5解説と確認小テスト</p> <p>第9回 『異文化コミ』事例9; TOEIC Part 5解説</p> <p>第10回 『異文化コミ』事例10; TOEIC Part 6解説</p> <p>第11回 『異文化コミ』事例11; TOEIC Part 7解説と確認小テスト</p> <p>第12回 『異文化コミ』事例12; TOEIC Part 7解説</p> <p>第13回 『異文化コミ』事例13; TOEIC Part 7解説</p> <p>第14回 『異文化コミ』事例14; TOEIC Part 7解説と確認小テスト</p> <p>第15回 『異文化コミ』事例15 ; TOEIC復習テスト</p>
授業概要	TOEICの聞き取り問題と読解問題を毎回15問程度ずつ練習しながらTOEICの特徴を説明し高得点の為の練習方法を紹介する。各回の初めに社会言語学に基づいた異文化間コミュニケーション事例分析をする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回分の問題の答えを予習し、更に音読練習まで終わらせてから授業に臨んでほしい。
テキスト	『公式TOEIC Listening & Reading 問題集vol.8』（国際ビジネスコミュニケーション協会2021）；阿部隆夫、他著『42の事例から考える異文化間英語コミュニケーション』（開拓者2020年）[または、廉価版：タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社、2011）]
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習が重視され、理解できなかった箇所に関しては次回に適時説明がされる。
評価方法	平常の音読練習課題15%，提出課題25%，定期試験60%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	留学生活、アルバイト、SNSなど大学生に身近で興味深い話題を題材に、リアルな英語表現でコミュニケーション力向上を図ります。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション Self - Introduction Unit1 College Life pp8-11</p> <p>第2回 Unit1 College Life pp12-14</p> <p>第3回 Unit2 Future Plans / Jobs pp15-19</p> <p>第4回 Unit2 Future Plans / Jobs pp20-21</p> <p>第5回 Unit3 Part-time Jobs and Otakatsu pp22-25</p> <p>第6回 Unit3 Part-time Jobs and Otakatsu pp26-28</p> <p>第7回 Unit4 Movies pp29-33</p> <p>第8回 Unit4 Movies pp34-35</p> <p>第9回 Unit5 Parties and Festivals pp36-40</p> <p>第10回 Unit5 Parties and Festivals pp41-42</p> <p>第11回 Unit6 Friends pp43-47</p> <p>第12回 Unit6 Friends pp48-49</p> <p>第13回 Unit7 Study Abroad / World Englishes pp50-54</p> <p>第14回 Unit7 Study Abroad / World Englishes pp55-56</p> <p>第15回 習熟度の確認</p>
授業概要	リスニングとリーディングに加えて、多彩なアクティビティ（ロールプレイや対話活動、ディスカッション）を通して、英語の運用能力を高めます。Active Listeningではディクテーションに取り組みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声を手に入れて、ダイアログや本文を音読する。語彙を書いて覚える。
テキスト	Activator Next (2023) Kinseido 1,900円 税別 塩澤 正 Adam Martinelli 著 ISBN：978-4-7647-4178-2
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ListeningのConversationや Readingの本文の内容を確認した後、repeatingしたり、ペアワークで音読したりして体に叩き込んでいきます。使えそうな表現や語彙は読み方を確認し、書いて覚えましょう。なお、Readingは和訳担当を決めて授業中に発表していただきます。一文ずつ英文を読んでから、訳をします。クラス全体に聞こえるように、はっきり、ゆっくりを心掛けましょう。和訳は紙に書いて発表後に提出しましょう。
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。 提出物も評価の対象とします。 授業参加（アクティビティへの参加など20点）、提出物（30点）、学期末試験（50点）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	アメリカに留学した際に必要になるとと思われる学生生活の情報、言語、文化にかかわる情報を聞いたり、読んだりして、4技能を伸ばします。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション Self - Introduction</p> <p>第2回 Unit1 Listening つながる音 Reading On Campus Facilities</p> <p>第3回 Unit2 Listening 聞こえなくなる破裂音 Reading Classrooms in American Universities</p> <p>第4回 Unit3 Listening 同化 Reading House Sharing</p> <p>第5回 Unit4 Listening 変身する/d/や/t/の音 (1) Reading Tutorial Support</p> <p>第6回 Unit5 Listening 弱化する音 Reading Blind Date</p> <p>第7回 Unit6 Listening 音変化が連続する Reading Wedding Announcement</p> <p>第8回 Unit7 Listening /h/音の脱落 Reading Keeping a Better Relationship</p> <p>第9回 Unit8 Listening 「ウ」に聞こえる/l/の音 Reading Pre-Wedding Parties</p> <p>第10回 Unit9 Listening 変身する/t/の音 (2) Reading Drinking Limits</p> <p>第11回 Unit10 Listening 音変化に慣れる Reading Speed Limits</p> <p>第12回 Unit11 Listening 複数の音変化に慣れる Reading A National Pastime</p> <p>第13回 Unit12 Listening シャドーイング Reading How to Spend the Weekends</p> <p>第14回 Unit13 Listening 音変化のまとめ Reading Words of Encouragement</p> <p>第15回 習熟度の確認</p>
授業概要	日米の大学生活や文化などの違いについて学ぶと同時に4技能の基礎を身につける。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声を手に入れて、音読をする。
テキスト	Cultural Encounters - American Campus Life (2011) Cengage Learning 2,255円 (税込) 西原俊明 西原真弓 Amy Mukamuri 著 ISBN: 978-4-86312-184-3
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	ListeningのConversationや Readingの本文の内容を確認した後、repeatingしたり、ペアワークで音読したりして体に叩き込んでいきます。使えそうな表現や語彙は読み方を確認し、書いて覚えましょう。なお、Readingは和訳担当を決めて授業中に発表していただきます。一文ずつ英文を読んでから、訳をします。クラス全体に聞こえるように、はっきり、ゆっくりを心掛けましょう。和訳は紙に書いて発表後に提出しましょう。
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。 提出物も評価の対象とします。 授業参加 (アクティビティへの参加など30点)、提出物 (20点)、学期末試験 (50点)
参考文献	
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業は、現代社会の重要テーマについて書かれた文章の読解を通して、英文を正確に読むために必要な語彙力と読解力の獲得を目標とします。 具体的な到達目標は次の通り。 ①授業で扱う語彙の意味を言うことができる。 ②授業で扱う英文を正確に読むことができる。
授業計画	<p>第1回            イントロダクション</p> <p>第2回            Chapter 1 Universal Basic Income</p> <p>第3回            Chapter 2 Farms without Land</p> <p>第4回            Chapter 3 Facial Recognition</p> <p>第5回            Chapter 4 Automated Transportation</p> <p>第6回            Chapter 5 Machine Learning</p> <p>第7回            Chapter 6 Where the Fish Grow</p> <p>第8回            中間試験と振り返り</p> <p>第9回            Chapter 7 Shaping the Future Factory</p> <p>第10回           Chapter 8 Monitor Addiction</p> <p>第11回           Chapter 9 Endless Education</p> <p>第12回           Chapter 10 Drones that Patrol, Deliver, and Teach</p> <p>第13回           Chapter 11 Energy Transition</p> <p>第14回           Chapter 12 Artificial Intelligence</p> <p>第15回           期末試験と振り返り</p>
授業概要	授業計画に沿って、教科書を進めていきます。各chapterでは、内容理解の問題に答えながら英文を読んでいます。訳読も行います。
実務経験及び授業の内容	該当しない
時間外学習	必ず予習をしたうえで授業に臨みましょう。英文を精読し、分からない語彙表現は調べ、和訳できるようにしておくとともに、問題に取り組むこと。また、授業後は復習をして知識の定着を図ることが大切です。
テキスト	James M. Vardman, 野地薫『変わりゆく世界：明日の世界を考える15のトピック』（¥1900+税） ISBN: 978-4-7553-0053-0
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	現代社会の重要テーマについての理解を深めながら英語力を伸ばしましょう。
評価方法	中間試験（50%）、期末試験（50%）
参考文献	
備考	授業には必ず辞書を持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
イプトナー, カロリン			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	In this class, students will discuss global issues and conduct various activities to improve their overall English skills. The goal of this class is for students to improve their English vocabulary and especially their English speaking and listening skills.
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Topic: Cashless society (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第3回 Topic: Cashless society (group presentation and activities)</p> <p>第4回 Topic: Fast fashion (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第5回 Topic: Fast fashion (group presentation and activities)</p> <p>第6回 Topic: Plastic packaging (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第7回 Topic: Plastic packaging (group presentation and activities)</p> <p>第8回 Topic: Cell phones (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第9回 Topic: Cell phones (group presentation and activities)</p> <p>第10回 Topic: Vegetarianism (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第11回 Topic: Vegetarianism (group presentation and activities)</p> <p>第12回 Topic: Social Media and online bullying (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第13回 Topic: Social Media and online bullying (group presentation and activities)</p> <p>第14回 Topic: Soda Tax/How to stop unhealthy eating and drinking (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第15回 Topic: Soda Tax/How to stop unhealthy eating and drinking (group presentation and activities)</p>
授業概要	<p>Two weeks are used for one topic.</p> <p>In Week 1, the teacher will introduce the topic and teach basic phrases and discussion techniques and students will prepare for their presentations in Week 2.</p> <p>In Week 2, students have to give a short presentation about the topic and there will be a vocabulary quiz. After that, the class will participate in group activities and games to actively practice English.</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Vocabulary practice and short assignments.
テキスト	"Global Issues - An Introduction to Discussion Skills" 「身近な世界を英語で発信」、Seibido、ISBN: 978-4-7919-7225-8
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	English learning can be fun! If you really want to improve your English skills, you should try using it in your daily life: watch movies in English, read books in English, or just simply set your phone to English. You can also join local English activities. Studying English is not hard, let's try some interesting ways to improve your English in this class!
評価方法	<p>25%: Assignments</p> <p>25%: Vocabulary quizzes</p> <p>25%: Class participation</p> <p>25%: Group presentations</p>
参考文献	

備考	受講調整を行う場合があるので、履修希望者は初回授業に必ず出席してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
イプトナー，カロリン			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	In this class, students will discuss global issues and conduct various activities to improve their overall English skills. The goal of this class is for students to improve their English vocabulary and especially their English speaking and listening skills.
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Topic: Cashless society (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第3回 Topic: Cashless society (group presentation and activities)</p> <p>第4回 Topic: Fast fashion (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第5回 Topic: Fast fashion (group presentation and activities)</p> <p>第6回 Topic: Plastic packaging (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第7回 Topic: Plastic packaging (group presentation and activities)</p> <p>第8回 Topic: Cell phones (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第9回 Topic: Cell phones (group presentation and activities)</p> <p>第10回 Topic: Vegetarianism (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第11回 Topic: Vegetarianism (group presentation and activities)</p> <p>第12回 Topic: Social Media and online bullying (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第13回 Topic: Social Media and online bullying (group presentation and activities)</p> <p>第14回 Topic: Soda Tax/How to stop unhealthy eating and drinking (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第15回 Topic: Soda Tax/How to stop unhealthy eating and drinking (group presentation and activities)</p>
授業概要	<p>Two weeks are used for one topic.</p> <p>In Week 1, the teacher will introduce the topic and teach basic phrases and discussion techniques and students will prepare for their presentations in Week 2.</p> <p>In Week 2, students have to give a short presentation about the topic and there will be a vocabulary quiz. After that, the class will participate in group activities and games to actively practice English.</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Vocabulary practice and short assignments.
テキスト	"Global Issues - An Introduction to Discussion Skills" 「身近な世界を英語で発信」、Seibido、ISBN: 978-4-7919-7225-8
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	English learning can be fun! If you really want to improve your English skills, you should try using it in your daily life: watch movies in English, read books in English, or just simply set your phone to English. You can also join local English activities. Studying English is not hard, let's try some interesting ways to improve your English in this class!
評価方法	<p>25%: Assignments</p> <p>25%: Vocabulary quizzes</p> <p>25%: Class participation</p> <p>25%: Group presentations</p>
参考文献	

備考	受講調整を行う場合があるので、履修希望者は初回授業に必ず出席してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
イプトナー，カロリン			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	In this class, students will discuss global issues and conduct various activities to improve their overall English skills. The goal of this class is for students to improve their English vocabulary and especially their English speaking and listening skills.
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Topic: Overtourism (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第3回 Topic: Overtourism (group presentation and activities)</p> <p>第4回 Topic: Improving Education (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第5回 Topic: Improving Education (group presentation and activities)</p> <p>第6回 Topic: Rethinking Zoos (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第7回 Topic: Rethinking Zoos (group presentation and activities)</p> <p>第8回 Topic: Alternative Energys (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第9回 Topic: Alternative Energy (group presentation and activities)</p> <p>第10回 Topic: Equal Pay in Sports (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第11回 Topic: Equal Pay in Sports (group presentation and activities)</p> <p>第12回 Topic: Gaming Addiction (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第13回 Topic: Gaming Addiction (group presentation and activities)</p> <p>第14回 Topic: Right to Privacy (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第15回 Topic: Right to Privacy (group presentation and activities)</p>
授業概要	<p>Two weeks are used for one topic.</p> <p>In Week 1, the teacher will introduce the topic and teach basic phrases and discussion techniques and students will prepare for their presentations in Week 2.</p> <p>In Week 2, students have to give a short presentation about the topic and there will be a vocabulary quiz. After that, the class will participate in group activities and games to actively practice English.</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Vocabulary practice and short assignments.
テキスト	"Global Issues - An Introduction to Discussion Skills" 「身近な世界を英語で発信」、Seibido、ISBN: 978-4-7919-7225-8
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	English learning can be fun! If you really want to improve your English skills, you should try using it in your daily life: watch movies in English, read books in English, or just simply set your phone to English. You can also join local English activities. Studying English is not hard, let's try some interesting ways to improve your English in this class!
評価方法	<p>25%: Assignments</p> <p>25%: Vocabulary quizzes</p> <p>25%: Class participation</p> <p>25%: Group presentations</p>
参考文献	
備考	受講調整を行う場合があるので、履修希望者は初回授業に必ず出席してください。

講義科目名称：英会話D（60430）

授業コード：60430

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
イプトナー，カロリン			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	In this class, students will discuss global issues and conduct various activities to improve their overall English skills. The goal of this class is for students to improve their English vocabulary and especially their English speaking and listening skills.
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Topic: Overtourism (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第3回 Topic: Overtourism (group presentation and activities)</p> <p>第4回 Topic: Improving Education (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第5回 Topic: Improving Education (group presentation and activities)</p> <p>第6回 Topic: Rethinking Zoos (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第7回 Topic: Rethinking Zoos (group presentation and activities)</p> <p>第8回 Topic: Alternative Energys (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第9回 Topic: Alternative Energy (group presentation and activities)</p> <p>第10回 Topic: Equal Pay in Sports (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第11回 Topic: Equal Pay in Sports (group presentation and activities)</p> <p>第12回 Topic: Gaming Addiction (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第13回 Topic: Gaming Addiction (group presentation and activities)</p> <p>第14回 Topic: Right to Privacy (vocabulary and conversation practice)</p> <p>第15回 Topic: Right to Privacy (group presentation and activities)</p>
授業概要	<p>Two weeks are used for one topic.</p> <p>In Week 1, the teacher will introduce the topic and teach basic phrases and discussion techniques and students will prepare for their presentations in Week 2.</p> <p>In Week 2, students have to give a short presentation about the topic and there will be a vocabulary quiz. After that, the class will participate in group activities and games to actively practice English.</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Vocabulary practice and short assignments.
テキスト	"Global Issues - An Introduction to Discussion Skills" 「身近な世界を英語で発信」、Seibido、ISBN: 978-4-7919-7225-8
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	English learning can be fun! If you really want to improve your English skills, you should try using it in your daily life: watch movies in English, read books in English, or just simply set your phone to English. You can also join local English activities in Yonezawa. Studying English is not hard, let's try some interesting ways to improve your English in this class!
評価方法	<p>25%: Assignments</p> <p>25%: Vocabulary quizzes</p> <p>25%: Class participation</p> <p>25%: Group presentations</p>
参考文献	
備考	受講調整を行う場合があるので、履修希望者は初回授業に必ず出席してください。

講義科目名称：異文化理解実習（60451）

授業コード：

英文科目名称：一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
英語英文学科専任教員			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 英語圏における語学学校での研修を通して、現地の人々と英語で交流し、英語コミュニケーション能力と英語表現能力を向上させること</p> <p>(2) 課外活動やホームステイ等の異文化体験を通し多様性の理解と適応能力を養うこと</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス：異文化理解実習の目的と概要説明、渡航に必要な事務手続の連絡	
	第2回	外国語コミュニケーション：英語コミュニケーションの基本について学ぶ	
	第3回	英語表現：生活に必要な具体的な英語表現について学ぶ	
	第4回	異文化理解（1）：多様性の理解について	
	第5回	異文化理解（2）：異文化適応について	
	第6回	実習：第1日 語学学校でのオリエンテーションとクラス分けなど ・移動日を含めて10日程度：学校で1日8時間（5日40時間）、異文化体験（休日分10時間） ・実習前日までに日本から現地まで移動	
	第7回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第8回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第9回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第10回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第11回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第12回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第13回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第14回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第15回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語圏（英語が母語あるいは日常のコミュニケーションの手段として広く使われている地域）の国での実習を2月に予定しています。英語英文学科の引率教員が渡航前に事前実習を10時間実施し、現地への移動方法、実習内容についても説明します。1回目の事前実習は6月下旬とし、その後原則として毎月1回事前指導を予定しています。日程は実習生と教員の時間割に合わせて調整します。</li> <li>・事前実習指導の後、実習国に渡航します。語学学校で授業を受けることによって、英語コミュニケーション練習をします。また、課外活動を通じて、異文化経験を積みます。</li> <li>・期間：（移動日を含めて）10日間程度</li> <li>・場所：英語圏の国を予定（決定次第掲示、事前実習でお知らせします）</li> <li>・学科を問わず事前指導を受講した者は参加可能です。安全、円滑な実習実現のため、最終的に渡航できるのは、やむを得ない理由の場合を除き、毎回の事前指導講座に出席した者とします。</li> </ul>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	新聞やニュースをチェックして、実習に訪れる地域の取り巻く問題に興味や関心を持つこと。		
テキスト	資料と教材を事前指導および現地校にて適宜配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どの学科の学生も参加できます。		
評価方法	事前指導参加（25%）、現地活動状況（65%）、実習後レポート（10%）		
参考文献			



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス/アルファベ、略語、つづり字記号</p> <p>第2回 つづり字の読み方</p> <p>第3回 1課 主語人称代名詞、国籍を表す形容詞</p> <p>第4回 1課 国籍を表す形容詞、動詞êtreの直説法現在</p> <p>第5回 1課 日常の基本的な挨拶 / 2課 名詞と不定冠詞</p> <p>第6回 2課 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数の一致</p> <p>第7回 2課 形容詞の性・数の一致、色の語彙</p> <p>第8回 これまでのまとめ / フランス文化紹介</p> <p>第9回 Civilisation フランス料理</p> <p>第10回 Civilisation フランス料理（発展学習）</p> <p>第11回 3課 第一群規則動詞-er動詞の直説法現在</p> <p>第12回 3課 定冠詞</p> <p>第13回 3課 疑問文</p> <p>第14回 フランス文化紹介</p> <p>第15回 前期内容の理解度確認 / 前期のまとめ</p>
授業概要	フランス語を初めて学ぶ学生向けの講義です。フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また、フランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。（大学内の購買部で購入可能。）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 4課 動詞avoirの直説法現在、形容詞の位置</p> <p>第3回 4課 否定文、人称代名詞の強勢形</p> <p>第4回 4課 avoirを使った慣用表現 / 5課 動詞allerの直説法現在</p> <p>第5回 5課 近接未来、指示形容詞</p> <p>第6回 5課 動詞faireの直説法現在、食事の時の表現</p> <p>第7回 これまでのまとめ / フランス文化紹介</p> <p>第8回 6課 所有形容詞</p> <p>第9回 6課 疑問形容詞、動詞pouvoirの直説法現在</p> <p>第10回 6課 数の読み方 / Civilisation 市場での買い物</p> <p>第11回 Civilisation 市場での買い物（発展学習）</p> <p>第12回 7課 疑問代名詞</p> <p>第13回 7課 非人称構文Il y a...、定冠詞の縮約</p> <p>第14回 7課 疑問副詞</p> <p>第15回 後期内容の理解度確認 / 後期のまとめ</p>
授業概要	「フランス語一」の履修学生を対象とした講義です。前期に引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また、フランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。 (大学内の購買部で購入可能。)
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。		
授業計画	第1回	前年度「フランス語一、二」の既習事項（教科書1課から7課）の簡単な復習	
	第2回	8課 文法：動詞prendre, vouloirの直説法現在 / 部分冠詞（導入）	
	第3回	8課 文法：部分冠詞 / 女性形容詞の特殊な形	
	第4回	8課 語彙：数量の表現 / 読解：簡単な料理レシピ	
	第5回	9課 文法：動詞venirと近接過去	
	第6回	9課 文法：第二群規則動詞 / 補語人称代名詞（直接目的語）	
	第7回	9課 文法：補語人称代名詞（間接目的語）	
	第8回	これまでのまとめ / Civilisation レストランに行こう	
	第9回	10課 文法：複合過去（助動詞êtreの例）	
	第10回	10課 文法：複合過去（助動詞avoirの例）	
	第11回	10課 文法：中性代名詞en, y / 語彙：時の表現	
	第12回	11課 文法：半過去	
	第13回	11課：文法：半過去（複合過去との対比）	
	第14回	11課 文法：動詞savoir, connaitreの直説法現在	
	第15回	前期内容の理解度確認 / フランス文化紹介	
授業概要	前年度「フランス語一」及び「フランス語二」の履修学生を対象とした講義です。引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。またフランス文化について理解を深めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。		
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。（大学内の購買部で購入可能。）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。		
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：フランス語四（60490）

授業コード：60490

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 12課 文法：非人称構文 / 代名動詞（再帰的用法）</p> <p>第3回 12課 文法：代名動詞（その他の用法）</p> <p>第4回 12課 文法：感嘆文que1とque / 時刻の表現</p> <p>第5回 13課 文法：比較級</p> <p>第6回 13課 文法：最上級</p> <p>第7回 13課 文法：指示代名詞 / 語彙：商店の語彙</p> <p>第8回 これまでのまとめ / Civilisation フランス人が好きなデザート</p> <p>第9回 14課 文法：単純未来</p> <p>第10回 14課 文法：命令法 / 語彙と表現：時の表現</p> <p>第11回 文法補遺：受動態</p> <p>第12回 文法補遺：条件法現在</p> <p>第13回 文法補遺：接続法現在</p> <p>第14回 読解：本格的な料理レシピ（文法知識の応用）</p> <p>第15回 前期内容の理解度確認 / フランス文化紹介</p>
授業概要	「フランス語三」の履修学生が対象の講義です。前期に引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。またフランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。 （大学内の購買部で購入可能。）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度（20%）、宿題の提出（20%）、期末試験の結果（60%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基礎（発音と基本例文）を修得する。まず、中国語の正確な発音を身につけた後、挨拶や文法の初歩について学ぶ。毎回、必ず発音トレーニングを行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	声調と単母音 声調と単母音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第3回	鼻母音と二重母音・三重母音 鼻母音と複母音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第4回	子音 子音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第5回	巻舌音と軽声 巻舌音と軽声について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	第6回	挨拶 中国語の挨拶について学び、例文を正確に発音できるように練習する。	
	第7回	別れの挨拶 別れの挨拶について学び、例文を正確に発音できるように練習する。	
	第8回	感謝とお詫び 感謝とお詫びの表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第9回	返事と呼び掛け 返事と呼び掛けの表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第10回	買い物 買い物の表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第11回	初対面の会話、是の用法 初対面の会話や是の用法について学び、例文の発音練習をする。	
	第12回	疑問詞、的の用法 疑問詞や「的」の用法について学び、例文の発音練習をする。	
	第13回	数字 数字に関する表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第14回	時間と日付 時間と日付の表現について学び、例文の発音練習をする。	
	第15回	まとめ これまでの学習内容が修得できているか、確認する。	
授業概要	中国語の発音、ローマ字表記システムであるピンイン、および挨拶など簡単な日常会話を学び、中国語の基礎の習得を目指す。また、中国の文化・社会についても随時紹介していく。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 基礎マスター』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の学習で重要なのは声を出すこと。授業では、恥ずかしがらずに大きな声を出しましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験で評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
李 通江			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>簡単なあいさつの言葉を使うことができるような基礎的運用能力を身につけることを目的とします。</p> <p>この中国語Ⅰを履修した学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中国語でいう「普通話」とは何かを説明できる。【知識・理解】</li> <li>2) 中国語でいうピンインとは何かを説明できる。【知識・理解】</li> <li>3) ピンインに対応する音声を発音することができる。【技能】</li> <li>4) 簡単な中国語のあいさつ言葉を適切に使うことができる。【技能】</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 授業の進め方とガイダンス</p> <p>第2回 発音（声調、母音）</p> <p>第3回 発音（複母音、子音）</p> <p>第4回 発音（子音、鼻母音）</p> <p>第5回 人称代名詞、動詞”是”の文</p> <p>第6回 指示代名詞、疑問詞疑問文</p> <p>第7回 動詞述語文、所有を表す動詞”有”</p> <p>第8回 形容詞述語文、助数詞</p> <p>第9回 時刻と時間量の表現</p> <p>第10回 完了を表す”了”、所在を表す”在”</p> <p>第11回 連動文</p> <p>第12回 助動詞”想””要”</p> <p>第13回 経験を表す”過”</p> <p>第14回 存在を表す”有”</p> <p>第15回 復習とまとめ *進み具合によって多少の変更があります。</p>
授業概要	本授業は、教科書に提示された単語や文型、文法及び本文を説明し、重点的に応用練習を行い、中国の流行や最新事情などを随時に紹介する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	1 テキストの単語、文法をしっかりと覚える。2 テキストに付随するCDを活用する。3 目標を立ててモチベーションを維持する。例えば、中国旅行、中国の留学生と話すなど。
テキスト	テキスト：改訂版 『さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読』 竹島毅、趙キン著白水社、2, 400円＋税。ISBN978-4-560-06942-4 C3087 ￥2400E 1階大学内の購買部で購入してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>語学の勉強は繰り返しと積み重ねが大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 予習、復習は必ず行う。</li> <li>2 わからないところがあれば積極的に質問する。</li> <li>3 声を出して会話文、読解文を読む練習を行う。</li> </ol> <p>以下を満たしていることを合格の基準とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 中国語文法の基礎を身につけている。</li> <li>2 初級程度の中国語会話ができる。</li> <li>3 中国語を使って簡単な交流できる。</li> </ol>
評価方法	授業への参加度20点＋授業中での練習30点＋テスト50点 合計100点
参考文献	参考書、辞書：授業中に何種類か紹介するので、必要な人はそれを参考にすること。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基本文法を修得する。「中国語一」での内容をふまえ、より高度な文法事項を学ぶ。毎回、必ず発音トレーニングを行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	是の用法「AはBです」 是の用法（「AはBです」）について学び、例文を暗記する。	
	第3回	指示語「これ・あれ・どれ」 指示語「これ・あれ・どれ」について学び、例文を暗記する。	
	第4回	形容詞述語文・形容詞 形容詞述語文と形容詞の用法について学び、例文を暗記する。	
	第5回	否定文「AはBではない」 否定文（「AはBではない」）について学び、例文を暗記する。	
	第6回	諾否疑問文 終助詞を使った諾否疑問文について学び、例文を暗記する。	
	第7回	反復疑問文 反復疑問文（「する？しない？」）について学び、例文を暗記する。	
	第8回	選択疑問文 選択疑問文（「AそれともB？」）について学び、例文を暗記する。	
	第9回	有と在の用法「AはBにいます」 有と在の用法（存在文）について学び、例文を暗記する。	
	第10回	疑問詞「何」「何の」 疑問詞（「何」「何の」）について学び、例文を暗記する。	
	第11回	疑問詞「誰」「どれ」「どこ」 疑問詞（「誰」「どれ」「どこ」）について学び、例文を暗記する。	
	第12回	疑問詞「なぜ」「どのように」 疑問詞（「なぜ」「どのように」）について学び、例文を暗記する。	
	第13回	副詞・前置詞 副詞・前置詞について学び、例文を暗記する。	
	第14回	助動詞（「可以」「要」「想」） 助動詞（「可以」「要」「想」）について学び、例文を暗記する。	
	第15回	まとめ これまでの学習内容が習得できているか、確認する。	
授業概要	肯定文・否定文・疑問文・前置詞・助動詞など、中国語の基本文法について講義する。 毎回提示する重要構文を正確に理解し、使用できるように指導する。 ※遠隔授業では、Teamsで授業を行う。Teamsへの課題提出で出席確認を行い、質疑応答もTeamsで行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 基礎マスター』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学は暗記が必要。復習をして次の授業の準備をする習慣を身につけましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験をもとに評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
李 通江			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>前期に履修した中国語Ⅰの学修内容を発展させ、日常的場面での会話を学び、応用的な運用能力を身につけるとともに、話し言葉を基盤とする平易な文章を読み解く能力を身につけることを目的とします。</p> <p>この中国語Ⅱを履修した学生は、</p> <p>1) 現代の標準的な中国語の文の特徴を指摘できる。【知識・理解】</p> <p>2) 現代標準中国語の辞書を使用できる。【知識・理解】</p> <p>3) 現代の中国語による日常的な会話を展開することができる。【技能】</p> <p>4) 現代の中国語の話し言葉を基礎とする平易な文章を読み、模倣できる。【技能】</p>
授業計画	<p>第1回 授業の進め方とガイダンス</p> <p>第2回 前期の復習、現在進行形、主述述語文</p> <p>第3回 助動詞”会”</p> <p>第4回 様態補語、助動詞”能”</p> <p>第5回 比較の表現</p> <p>第6回 副詞”有点儿”、持続表現</p> <p>第7回 名詞述語文、変化を表す”了”</p> <p>第8回 2つの目的語を取る動詞</p> <p>第9回 結果補語</p> <p>第10回 近い未来を表す表現</p> <p>第11回 方向補語</p> <p>第12回 使役表現</p> <p>第13回 可能補語</p> <p>第14回 受け身</p> <p>第15回 復習とまとめ *進み具合によって多少の変更があります。</p>
授業概要	上記の目標を達成するため、中国語Ⅰで使用したテキストを継続して使用しつつ、前期と同様の運営を行います。また、映像資料によりながら、実際に中国語が使われている情景を観察してみます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	中国語Ⅰと同様、教材に添付された音声資料をあらかじめよく聞いておき、音声を確認します。辞書を活用して会話の内容がきちんと把握できるかどうか点検します。疑問点があればメモをし、随時教員に質問しながら受講して下さい。また確認のためのドリルは、授業中の指示に従って、自主的に継続して取り組みましょう。授業で聞いた説明で、教材に疑問の箇所が残っていないかどうかを確かめます。それから、何度も声に出して読み、できる限り記憶して下さい。
テキスト	テキスト：改訂版 『さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読』 竹島毅、趙キン著白水社、2、400円＋税。ISBN978-4-560-06942-4 C3087 ￥2400E 1階大学内の購買部で購入してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語Ⅱの学習では、辞書の助けが必須になります。辞書を活用する習慣を身につけましょう。以下を満たしていることを合格の基準とする。 現代標準中国語の日常的な表現を、場面に応じて口頭で使うことができるとともに、平易な読み物を辞書の助けを借りながら読みこなす能力を身につけていることを合格の基準とします。
評価方法	授業への参加度20点＋授業中での練習30点＋テスト50点 合計100点
参考文献	参考書、辞書：授業中に何種類か紹介するので、必要な人はそれを参考にすること。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」・「中国語二」で学んだ内容をふまえ、具体的な会話文を素材に、実践的な中国語の修得を目指す。毎回、必ず発音トレーニングを行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	代名詞と肯定・否定文 代名詞と肯定・否定文について学び、例文を暗記する。	
	第3回	日時と金額 日時と金額に関する表現について学び、例文を暗記する。	
	第4回	有と在 「有」と「在」の表現について学び、例文を暗記する。	
	第5回	疑問文 諸否疑問文・疑問詞疑問文について学び、例文を暗記する。	
	第6回	出会いの表現 「出会い」の表現について学び、例文を暗記する	
	第7回	時と語順 時を表す表現と語順について学び、例文を暗記する。	
	第8回	様々な疑問詞 様々な疑問詞について学び、例文を暗記する。	
	第9回	時間量 時間の長さに関する表現について学び、例文を暗記する。	
	第10回	仮定・譲歩の表現 仮定・譲歩の表現について学び、例文を暗記する。	
	第11回	出自の表現 出自に関する表現について学び、例文を暗記する。	
	第12回	前置詞の表現 前置詞を用いた表現について学び、例文を暗記する。	
	第13回	「的」の用法 「的」の様々な用法について学び、例文を暗記する。	
	第14回	チェックイン チェックインの会話文について学び、自分でできるようになる。	
	第15回	まとめ これまでの学習内容が修得できているか、確認する。	
授業概要	実践的な中国語について講義する。テキストの本文について正確に理解した上で、それを活用して自分の考えを中国語で表現できるように指導する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 会話レッスン』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語は初級からのレベルアップが難しい言語です。基礎事項を確認しつつ、応用力を鍛えましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験で評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一・二・三」で学んだ内容をふまえ、さらに実践的な中国語の習得を目指す。毎回必ず発音トレーニングを行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	第2回	相手の意向を尋ねる 相手の意向を尋ねる表現について学び、例文を暗記する。	
	第3回	宴席での会話 宴席での会話表現について学び、例文を暗記する。	
	第4回	完了を表す 完了のアスペクトについて学び、例文を暗記する。	
	第5回	変化を表す 変化を表す終助詞について学び、例文を暗記する。	
	第6回	お店での会話 お店での会話表現について学び、例文を暗記する。	
	第7回	進行を表す 進行の副詞について学び、例文を暗記する。	
	第8回	状態を表す 状態のアスペクトについて学び、例文を暗記する。	
	第9回	料理についての会話 料理についての会話表現について学び、例文を暗記する。	
	第10回	経験を表す 経験のアスペクトについて学び、例文を暗記する。	
	第11回	動詞の重ね型 動詞の重ね型について学び、例文を暗記する。	
	第12回	「少し」を表す 「少し」の表現について学び、例文を暗記する。	
	第13回	ビジネス会話 ビジネスでの会話表現について学び、例文を暗記する。	
	第14回	自己紹介 中国語で自己紹介する文章を作成し、正確に暗記する。	
	第15回	まとめ これまでの学習内容が修得できているか、確認する。	
授業概要	より実践的な中国語について講義する。 テキストの本文について正確に理解した上で、それを活用して自分の考えを中国語で表現できるように指導する。 最終的に中国語で自己紹介ができるレベルを目指す。 ※遠隔授業では、Teamsで授業を行う。Teamsへの課題提出で出席確認を行い、質疑応答もTeamsで行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 会話レッスン』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語三までに修得した文法・単語も活かしつつ、様々な場面での会話をシミュレーションして、自分を考えを自由に表現できる力を身につけましょう。		
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験をもとに評価する。（発言・発表50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技、演習、講義

授業のテーマ及び到達目標	個人種目スポーツ（テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ）の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業に関する説明	
	第2回	屋内体力・運動能力測定① 自分自身の体力を把握し、分析する	
	第3回	屋内体力・運動能力測定② 自分自身の体力を把握し、分析する	
	第4回	屋外体力・運動能力測定 自分自身の体力を把握し、分析する	
	第5回	バドミントン、卓球 基本的技能の習得、簡易ゲーム、シングルス	
	第6回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦①	
	第7回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦②	
	第8回	ゴルフ、テニス 種目の特性およびルールの理解	
	第9回	ゴルフ、テニス 基本的技能の習得	
	第10回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス①	
	第11回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス②	
	第12回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス①	
	第13回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス②	
	第14回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
	第15回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
授業概要	様々なラケット系種目を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は、個人種目のスポーツを通じて楽しく身体を動かす時間です。それぞれの種目を実際にやってみることで、身体を動かす楽しさはもちろん、それぞれの種目のおもしろさにもふれることができるでしょう。その中からみなさんが生涯楽しんでいけるスポーツにも出会えるかもしれません。スポーツが好きな人はもちろん、スポーツが苦手な人もまずは一緒にやってみましょう。みなさんのスポーツ熱が高まるような授業にしていきたいと考えています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2023年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で末履修の学生は優先します）。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	個人種目スポーツ（テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ）の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業に関する説明	
	第2回	屋内体力・運動能力測定 自分自身の体力・運動能力を把握し、分析する	
	第3回	屋外体力・運動能力測定 自分自身の体力・運動能力を把握し、分析する	
	第4回	ゴルフ、テニス① 種目の特性およびルールの理解、基本的技能の習得	
	第5回	ゴルフ、テニス② 基本的技能の習得	
	第6回	③ゴルフ、テニス ラウンド、シングルス	
	第7回	④ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス	
	第8回	①バドミントン、卓球 種目の特性およびルールの理解、基本的技能の習得	
	第9回	②バドミントン、卓球 基本的技能の習得	
	第10回	③バドミントン、卓球 簡易ゲーム	
	第11回	④バドミントン、卓球 シングルス	
	第12回	⑥バドミントン、卓球 ダブルス	
	第13回	⑦バドミントン、卓球 ダブルス	
	第14回	①バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
	第15回	②バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
授業概要	様々なラケット系種目を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は、個人種目のスポーツを通じて楽しく身体を動かす時間です。それぞれの種目を実際にやってみることで、身体を動かす楽しさはもちろん、それぞれの種目のおもしろさにもふれることができるでしょう。その中からみなさんが生涯楽しんでいけるスポーツにも出会えるかもしれません。スポーツが好きな人はもちろん、スポーツが苦手な人もまずは一緒にやってみましょう。みなさんのスポーツ熱が高まるような授業にしていきたいと考えています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2023年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	球技スポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール）を楽しみながら、それぞれの種目の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握し、分析する	
	第3回	屋外体力測定 自分自身の体力を把握し、分析する	
	第4回	バレーボールまたはフットサル 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第5回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第6回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第7回	バレーボールまたはフットサル リーグ戦③	
	第8回	ソフトボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第9回	ソフトボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第10回	ソフトボール リーグ戦②	
	第11回	バスケットボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第12回	バスケットボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	バスケットボール リーグ戦②	
	第14回	まとめ① バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
	第15回	まとめ② バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
授業概要	上記の種目について、1種目につき3時間程度ずつ実技を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間はチームスポーツを対象とした時間です。みなさん1人1人には、例えば、右利きの人左利き人、走るのが速い人遅い人など、それぞれ特徴があります。仲間同士でその特徴を生かし合いながら、チームでスポーツをする楽しさを味わってください。また、ゲーム中の戦術や技術にふれば、これらのスポーツを観るときに新たな楽しみ方が増えます。みなさんがこの時間を楽しみに思い、より意欲的に参加できるような時間にしていきたいと思います。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2023年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	球技スポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール）を楽しみながら、それぞれの種目の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握し、分析する。	
	第3回	屋外体力測定 自分自身の体力を把握し、分析する。	
	第4回	バレーボールまたはフットサル 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第5回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第6回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第7回	バレーボールまたはフットサル リーグ戦③	
	第8回	ソフトボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第9回	ソフトボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第10回	ソフトボール リーグ戦②	
	第11回	バスケットボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第12回	バスケットボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	バスケットボール リーグ戦②	
	第14回	まとめ① バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
	第15回	まとめ② バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
授業概要	上記の種目について、1種目につき3時間程度ずつ実技を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間はチームスポーツを対象とした時間です。みなさん1人1人には、例えば、右利きの人左利き人、走るのが速い人遅い人など、それぞれ特徴があります。仲間同士でその特徴を生かし合いながら、チームでスポーツをする楽しさを味わってください。また、ゲーム中の戦術や技術にふれば、これらのスポーツを観るときに新たな楽しみ方が増えます。みなさんがこの時間を楽しみに思い、より意欲的に参加できるような時間にしていきたいと思います。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2023年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技、演習、講義

授業のテーマ及び到達目標	様々なニュースポーツを経験することで、身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツを行うことの楽しさを味わう。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明</p> <p>第2回 屋内体力測定 自分自身の体力を把握し、分析する。</p> <p>第3回 屋外体力測定 自分自身の体力を把握し、分析する。</p> <p>第4回 スカイクロス 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得。ゲーム、ラウンド①</p> <p>第5回 スカイクロス ゲーム、ラウンド②</p> <p>第6回 インディアカ 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得。簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第7回 インディアカ リーグ戦②</p> <p>第8回 フリーテニス 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得</p> <p>第9回 フリーテニス 簡易ゲーム、シングルス</p> <p>第10回 フリーテニス ダブルス</p> <p>第11回 ユニホック 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得</p> <p>第12回 ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦①</p> <p>第13回 ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦②</p> <p>第14回 まとめ① スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。</p> <p>第15回 まとめ② スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。</p>
授業概要	様々なニュースポーツを1種目につき3時間程度ずつ実施していきます。授業回数の後半は、授業で実施した種目の中から、各個人が好きな種目を選択して実施します。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は様々なスポーツ種目を実施します。これまでにやったことのないスポーツも出てくることでしょう。新たな種目に挑戦することのおもしろさや、身体を動かすことの楽しさを味わってください。生涯楽しんでいけるスポーツと出会えるかもしれません。みなさんがより積極的にスポーツを楽しめるような時間になりたいと思っています。
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート
参考文献	
備考	<p>感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。</p> <p>① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2023年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。</p> <p>② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で末履修の学生は優先します）。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	様々なニュースポーツを経験することで、身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツを行うことの楽しさを味わう。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握し、分析する。	
	第3回	屋外体力測定 自分自身の体力を把握し、分析する。	
	第4回	スカイクロス 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得。ゲーム、ラウンド①	
	第5回	スカイクロス ゲーム、ラウンド②	
	第6回	インディアカ 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得。簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第7回	インディアカ リーグ戦②	
	第8回	フリーテニス 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得	
	第9回	フリーテニス 簡易ゲーム、シングルス	
	第10回	フリーテニス ダブルス	
	第11回	ユニホック 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得	
	第12回	ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第14回	まとめ① スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
	第15回	まとめ② スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
授業概要	様々なニュースポーツを1種目につき3時間程度ずつ実施していきます。授業回数の後半は、授業で実施した種目の中から、各個人が好きな種目を選択して実施します。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は様々なスポーツ種目を実施します。これまでにやったことのないスポーツも出てくることでしょう。新たな種目に挑戦することのおもしろさや、身体を動かすことの楽しさを味わってください。生涯楽しんでいけるスポーツと出会えるかもしれません。みなさんがより積極的にスポーツを楽しめるような時間になりたいと思っています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため以下の制限がありますので確認してください。 ① 2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2023年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技三と六を同時に履修することはできない）。 ② 履修者の上限は40名とする。履修希望者が多い場合（40名以上）は、抽選を行います（2年生で末履修の学生は優先します）。		



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技、演習、講義

授業のテーマ及び到達目標	フィットネストレーニング、ダンス等を通じて楽しく身体を動かしながら自分の体調をチェックしたり体力レベルを維持・増進したりできるような手段を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業計画について	
	第2回	屋内体力測定 現在の自分自身の体力を把握し、分析する。	
	第3回	屋外体力測定 現在の自分自身の体力を把握し、分析する。	
	第4回	ウォーキング、ジョギング ウォーキング、ジョギングの効果や方法、適切なフォームについて	
	第5回	ダンスの基本① 効果や実施方法について	
	第6回	ダンスの基本②	
	第7回	筋力トレーニング① 効果や実施方法について	
	第8回	筋力トレーニング② 効果や実施方法について	
	第9回	運動実践① 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第10回	運動実践② 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第11回	運動実践③ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第12回	運動実践④ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第13回	運動実践⑤ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第14回	運動実践⑥ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第15回	体力測定 運動実践の評価	
授業概要	筋力トレーニング、ジョギング、ダンスなどを組み合わせて進めていきます。最初のオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特に指定しません。ジャージ等の身体を動かせる服装で、グラウンドでの実技の場合には運動用のシューズ、体育館での実技の場合には上履きとは別に体育館用のシューズを必ず準備してください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分自身の体調を管理するための知識や方法について学んでください。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% レポート		
参考文献			
備考	2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2023年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技五と七を同時に履修することはできない）。 履修希望者が多い場合（60名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	フィットネストレーニング、ダンス等を通じて楽しく身体を動かしながら自分の体調をチェックしたり体力レベルを維持・増進したりできるような手段を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業計画について	
	第2回	屋内体力測定 現在の自分自身の体力を把握し、分析する。	
	第3回	屋外体力測定 現在の自分自身の体力を把握し、分析する。	
	第4回	ウォーキング、ジョギング ウォーキング、ジョギングの効果や方法、適切なフォームについて	
	第5回	ダンスの基本① 効果や実施方法について	
	第6回	ダンスの基本②	
	第7回	筋力トレーニング① 効果や実施方法について	
	第8回	筋力トレーニング② 効果や実施方法について	
	第9回	運動実践① 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第10回	運動実践② 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第11回	運動実践③ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第12回	運動実践④ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第13回	運動実践⑤ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第14回	運動実践⑥ 筋力トレーニング、ジョギング・ウォーキング、ダンス等	
	第15回	体力測定 運動実践の評価	
授業概要	筋力トレーニング、ジョギング、ダンスなどを組み合わせて進めていきます。最初のオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特に指定しません。ジャージ等の身体を動かせる服装で、グラウンドでの実技の場合には運動用のシューズ、体育館での実技の場合には上履きとは別に体育館用のシューズを必ず準備してください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分自身の体調を管理するための知識や方法について学んでください。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% レポート		
参考文献			
備考	2年生で既にスポーツ実技を2単位以上取得している学生は履修できません。また、2023年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとします（例えばスポーツ実技五と七を同時に履修することはできない）。 履修希望者が多い場合（60名以上）は、抽選を行います（2年生で未履修の学生は優先します）。		

講義科目名称：スポーツ実技九（60690）

授業コード：60690

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	自然に触れ合いながら身体を動かす楽しみを味わえるようにする。		
授業計画	第1回	事前指導① 山形の自然について	
	第2回	事前指導② アウトドアスポーツの基本	
	第3回	カヌー①	
	第4回	カヌー②	
	第5回	カヌー③	
	第6回	月山登山①	
	第7回	月山登山②	
	第8回	月山登山③	
	第9回	月山登山④	
	第10回	月山登山⑤	
	第11回	月山登山⑥	
	第12回	フィッシング①	
	第13回	フィッシング②	
	第14回	フィッシング③	
	第15回	まとめ	
授業概要	カヌー、トレッキング、登山など自然の中で行うスポーツを楽しむ。事前、事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	必要な物品等はオリエンテーション（7月に予定）で指示します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自然の中で様々な体験をすることで、身体を動かす楽しさや爽快感を味わって欲しいと思います。		
評価方法	参加状況（60%）とレポート（40%）によって総合的に評価する。		
参考文献			
備考	実習費用は25000円前後です。オリエンテーションまでには確定します。		

講義科目名称：スポーツ実技十（60700）

授業コード：60700

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	様々なスノースポーツを経験し、その基本的な技術を習得することで、冬期間に行う運動種目として活用できるようにする。		
授業計画	第1回	事前指導① 山形の自然について	
	第2回	事前指導② アウトドアスポーツの基本	
	第3回	スノーシュートレッキング①	
	第4回	スノーシュートレッキング②	
	第5回	スノーシュートレッキング③	
	第6回	クロスカントリースキー①	
	第7回	クロスカントリースキー②	
	第8回	クロスカントリースキー③	
	第9回	クロスカントリースキー④	
	第10回	雪板①	
	第11回	雪板②	
	第12回	雪板③	
	第13回	スノーモービル①	
	第14回	スノーモービル②	
	第15回	まとめ	
授業概要	冬季野外活動種目であるスノーシュー、スキー、スノーモービル等を体験する。事前、事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	必要な物品等はオリエンテーションで指示します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	雪山でのスノースポーツを通して、身体を動かす楽しさや爽快感を味わって欲しいと思います。		
評価方法	参加状況（60%）とレポート（40%）によって総合的に評価する。		
参考文献			
備考	実習費用は30000円前後です。オリエンテーションまでにはお知らせします。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択・教職選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の健康管理を行なう上で必要となる知識や健康づくりの関する様々な情報について学習する。</li> <li>・自分の健康管理を行う手法を学習する。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 健康づくりに関する各種取り組みの紹介</p> <p>第2回 自分自身の日常運動量及び体力について</p> <p>第3回 日頃の健康状態のセルフチェック法</p> <p>第4回 メンタルフィットネス</p> <p>第5回 健康と体力</p> <p>第6回 現代の学生生活と健康</p> <p>第7回 加齢と健康について</p> <p>第8回 まとめ</p>
授業概要	健康のためにどのようなことを実践していますか確認してもらい、健康に生きて行くためには、日常生活でどのような点に注意を置き、どのような生活スタイルを身につけたらよいかについて資料等を通して学習していく。
実務経験及び授業の内容	自治体での健康推進計画(米沢市、長井市)や介護保険運営協議会(米沢市)、認知症施策推進行動計画(山形県)、様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし健康理論の授業を行う。
時間外学習	授業を踏まえて配布した資料等を今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	期末レポート課題：50%、授業への参加度(理由、報告のない欠席、途中入退室等)：50%で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：スポーツ文化論（60720）

授業コード：60720

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	競技スポーツ（オリンピックやプロスポーツ）と生涯スポーツ（楽しみや健康のためのスポーツ）の2つの側面から、スポーツ界の現状を知り、スポーツの持つ様々な魅力や問題点に触れることで、スポーツの味方や考え方を深める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	日本におけるスポーツ文化① 部活動	
	第3回	日本におけるスポーツ文化② スポーツクラブ	
	第4回	世界におけるスポーツの歴史	
	第5回	日本におけるスポーツの歴史	
	第6回	古代オリンピック①	
	第7回	古代オリンピック②	
	第8回	近代オリンピック①	
	第9回	近代オリンピック②	
	第10回	日本におけるスポーツ文化③	
	第11回	スポーツとルール	
	第12回	メディアとスポーツ	
	第13回	子どもとスポーツ	
	第14回	健康とスポーツ	
	第15回	まとめ	
授業概要	スポーツに関する様々な内容を取り上げ、講義形式で行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内で配布した資料の復習を行う。		
テキスト	特に指定しません。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	みなさんの身近なところから世界に至るまで、スポーツの様々な側面をみることで、これまで以上に深くスポーツを観ることができると思います。みなさんの意見や考えなども聞きながら、様々な見方や考え方を引き出せるよう工夫していきたいと思っています。		
評価方法	授業への参加度（20%）と授業後の小レポート（80%）で評価します。		
参考文献			
備考	感染症予防対策のため履修者の上限は50名とする。履修希望者が多い場合（50名以上）は、抽選を行います。なお、2年生で卒業単位等に関わる学生は優先するので事前に申し出てください。		